U/Cサーバ 10.6.0
バージョンアップマニュアル

株式会社 広告EDIセンター

注意事項

- 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は、予告なしに変更する場合があります。
- 本書の内容に不備がある場合は、ご連絡ください。

本書に掲載されている製品およびサービス等の名称は、各社の商標または登録商標です。

変更履歴

版	更新日	変更内容
1	2025/09/24	新規作成
2	2025/10/14	2.2.1. U/Cサーバの停止 一部体裁の修正 2.2.5. イベントソースの作成 イベントソース作成時の補足事項を追加 2.2.7. U/Cサーバの起動 表2-3の「引数の追加(オプション)」の設定値を一部修正
	2026/02/17	1. はじめに 広告EDIセンターのホームページのURLを更新 1.3.2. ソフトウェア 動作環境OSに「Windows Server 2025 Standard」「Windows Server 2025 Datacenter」を追加

1. はじめに 5
1.1. セットアップ内容に適したマニュアルについて 5
1.2. 名称について 5
1.3. U/Cサーバの動作環境について 6
1.3.1. ハードウェア 6
1.3.2. ソフトウェア 6
1.3.3. ネットワーク 6
1.3.4. 動作条件 6
1.4. インストーラについて 7
2. U/Cサーバのバージョンアップ 8
2.1. 注意事項 8
2.2. バージョンアップ手順 9
2.2.1. U/Cサーバの停止 9
2.2.2. SystemManager、TaskManagerのアンインストール 11
2.2.3. インストーラの実行 12
2.2.4. 不要フォルダの削除 22
2.2.5. イベントソースの作成 23
2.2.6. サービス設定変更 26
2.2.7. U/Cサーバの起動 27
2.3. バージョンアップ後の動作確認 37
2.3.1. 問い合わせ機能による確認 37
2.4. SystemManager、TaskManagerの別端末でのバージョンアップ 39
2.5. エラーが発生したときは 40
2.5.1. 対応方法 40
2.5.2. インストーラの再実行 41

1.　はじめに

本書は、「U/Cサーバ 10.6.0 （以下、U/Cサーバ）」のバージョンアップ手順、環境設定方法について記述しています。広告EDIセンターHP（https://ad-edi.com/service/edi/newuc-10.html）より、最新版のインストーラをダウンロードし、バージョンアップしてください。

1.1. セットアップ内容に適したマニュアルについて

U/Cサーバのインストール、バージョンアップ、サーバ移行のうち、目的のセットアップ内容に沿った適切なマニュアルを参照してください。本書は以下のうち2つ目に該当します。

➢ 新規にU/Cサーバをインストール

Windows Serverに新しくU/Cサーバをインストールする場合、別紙「U/Cサーバ 10.6.0 インストールマニュアル」を参照してください。

➢ 既存のU/Cサーバをバージョンアップ

過去のバージョンのU/Cサーバがインストールされているwindows Serverにおいて、最新のU/Cサーバへバージョンアップする場合、本書を参照してください。

登録されているデータを保持した状態で、U/Cサーバのアプリケーションのバージョンアップを行います。

➢ 既存のU/Cサーバを元に新規U/Cサーバへ移行

U/Cサーバがインストールされているwindows Serverを所有している状態で、別のwindows Serverを用意してそちらに最新のU/Cサーバを構築する場合、別紙「U/Cサーバ サーバ移行マニュアル」を参照してください。

既存のU/Cサーバに登録されている情報を、新たに構築するU/Cサーバへ移行します。既存のU/Cサーバと新たに構築するU/Cサーバのバージョンが異なる場合でも移行可能です。

1.2. 名称について

本書において使用する名称は以下の通りです。

- PostgreSQL
  U/Cサーバが使用するデータベースアプリケーションです。

- Adobe AIR
  SystemManagerとTaskManagerを実行するためのランタイムライブラリです。

- SystemManager
  広告取引EDIシステムと通信するための設定等を表示・入力するクライアント画面です。

- TaskManager
  データ交換を行うためのスケジュール登録などを行うクライアント画面です。

- UCController
  U/Cサーバ全体を管理する機能です。

- ScheduleController
  U/Cサーバのスケジュール起動を管理する機能です。

1.3. U/Cサーバの動作環境について

U/Cサーバの動作環境は以下の通りです。

1.3.1. ハードウェア

表 1-1 U/Cサーバ動作環境(ハードウェア)

環境	条件
CPU	2コア以上推奨
メモリ	2GB以上推奨
ハードディスク	U/Cサーババージョンアップ時に必要なディスク容量 約2,500MB

1.3.2. ソフトウェア

表 1-2 U/Cサーバ動作環境(ソフトウェア)

環境	条件
OS	Windows Server 2016 Standard Windows Server 2019 Standard、Datacenter Windows Server 2022 Standard、Datacenter Windows Server 2025 Standard、Datacenter ※動作保証の対象は、64bit版のWindows Serverのみとなります。
ミドルウェア	Adobe AIR ランタイム ※HARMAN社から無償配布されています ※下記URLより「AIR runtime」の最新版をダウンロードし、インストールしてください。 https://airsdk.harman.com/runtime Windows PowerShell ※サポート対象OSに標準搭載されており、追加インストールなしで利用可能です。

1.3.3. ネットワーク

以下いずれかのネットワーク環境が整っている必要があります。

表 1-3 U/Cサーバ動作環境(ネットワーク)

環境	備考
インターネット接続(TLS接続)	お客様環境に依存するため、詳細はお客様社内ネットワークのご担当者様にご確認ください。
統合型セキュアネットワークサービス (旧サービス名:DCAN)	ご利用にあたっては別途料金が発生します。 詳細は広告取引EDIサポートデスクまでお問い合わせください。

1.3.4. 動作条件

U/Cサーバの動作条件は以下の通りです。

- 動作環境のOSおよびミドルウェアが正常に動作していること
- ネットワーク設定が行われており、通信ができる状態であること

1.4. インストーラについて

U/Cサーバのインストーラ（UCS_ver10.6.0_setup.exe）は、初期インストールとバージョンアップのどちらにも対応することができます。インストーラを実行すると、以下の条件に従って、自動的に該当する処理の開始画面が表示されます。

- インストール
  U/Cサーバ 10.0.0 以降のバージョンがインストールされていないこと
- バージョンアップ
  U/Cサーバ 10.5.0 以降のバージョンをインストール済みであること

2. U/Cサーバのバージョンアップ

本章ではU/Cサーバのバージョンアップ手順を説明します。
バージョンアップは次の順番で実施します。

1. U/Cサーバの停止
2. SystemManager、TaskManagerのアンインストール
3. インストーラの実行
   - 現行モジュールのバックアップ取得
   - 新規モジュールへの更新
   - データベース定義の更新
   - SystemManagerのインストール
   - TaskManagerのインストール
   - PostgreSQLのインストール
4. 不要フォルダの削除
5. イベントソースの作成
6. サービス設定変更
7. U/Cサーバの起動

2.1. 注意事項

バージョンアップ実施に際して、以下の条件を満たしていることを確認してください。全ての条件を満たさない場合は、以降のバージョンアップ手順は実施出来兼ねます。条件を満たすことができない場合は、一度U/Cサーバをアンインストールし、再度インストールすることでバージョンアップを実施してください。

- U/Cサーバ 10.5.0 以降のバージョンをインストールしている端末でバージョンアップを行うこと
- U/Cサーバのインストールフォルダを変更しないこと
- 新規PostgreSQLのインストール先を変更しないこと
- (U/Cインストールフォルダ)¥operationフォルダにアクセス権限があること
- Adobe AIR ランタイムのバージョンが最新になっていること
  ※「1.3.2.ソフトウェア」に記載のURLより最新版をダウンロードし、インストールしてください。

なお、バージョンアップ実施に際して、以下の内容が削除されることはありません。

- SystemManager、およびTaskManagerから登録した設定 (ユーザ設定や送受信スケジュール等)
- (U/Cインストールフォルダ)¥ユーザフォルダ配下 (送受信データ含む)

※ 以降の手順へ進む前に、必ずU/Cサーバのバックアップを取得してください。
※ バックアップ取得手順は「UCサーバ 10.6.0 オペレーションマニュアル」の「7.1.バックアップ」を参照してください。

2.2. バージョンアップ手順

2.2.1. U/Cサーバの停止

はじめに、稼働中のU/Cサーバを停止します。停止するサービス・プロセスは以下の通りです。

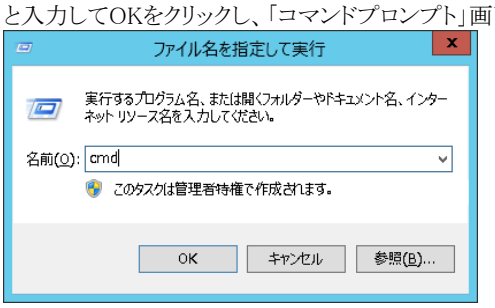
- プロセス UCController、ScheduleController
- サービス UcsLog、UIServer

※ PostgreSQLサービスは停止不要です。

1. プロセス UCController、ScheduleController の停止手順

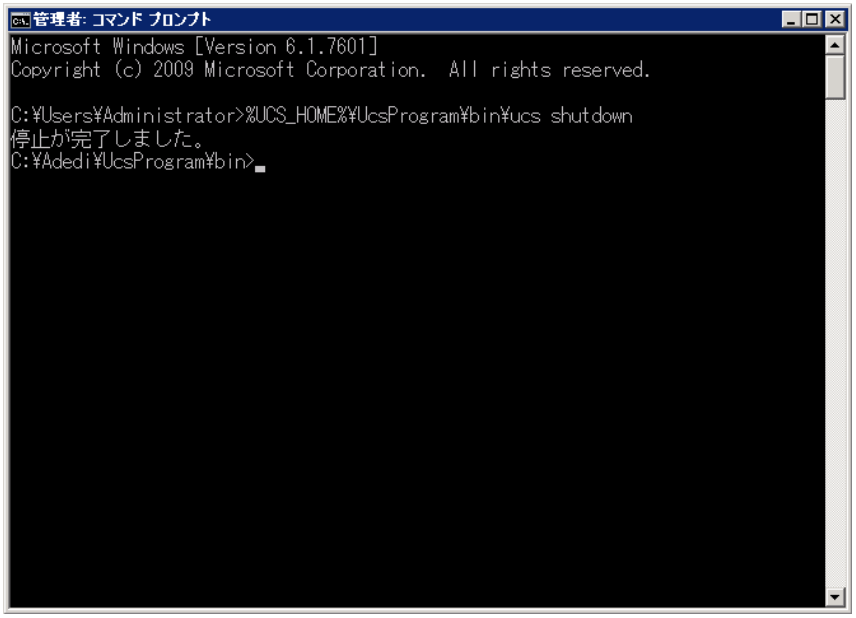
① U/Cサーバがインストールされているwindows Serverのデスクトップ画面にて、キーボードのWindowsロゴキーを押しながらRキーを押し、「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスを開きます。

② ダイアログボックスに「cmd」と入力してOKをクリックし、「コマンドプロンプト」画面を開きます。



③ 「コマンドプロンプト」画面で「%UCS_HOME%¥UcsProgram¥bin¥ucs shutdown」と入力し、Enterを押して実行します。

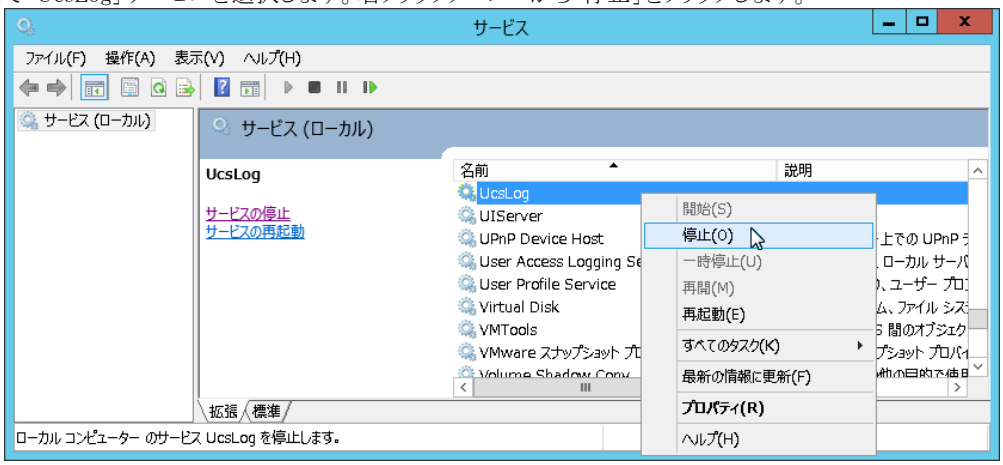
④ 正常に停止した場合は「停止が完了しました」というメッセージが表示されます。
メッセージの確認後、右上の[×]ボタンより「コマンドプロンプト」画面を閉じてください。



2. サービス UIServer、UcsLog の停止手順

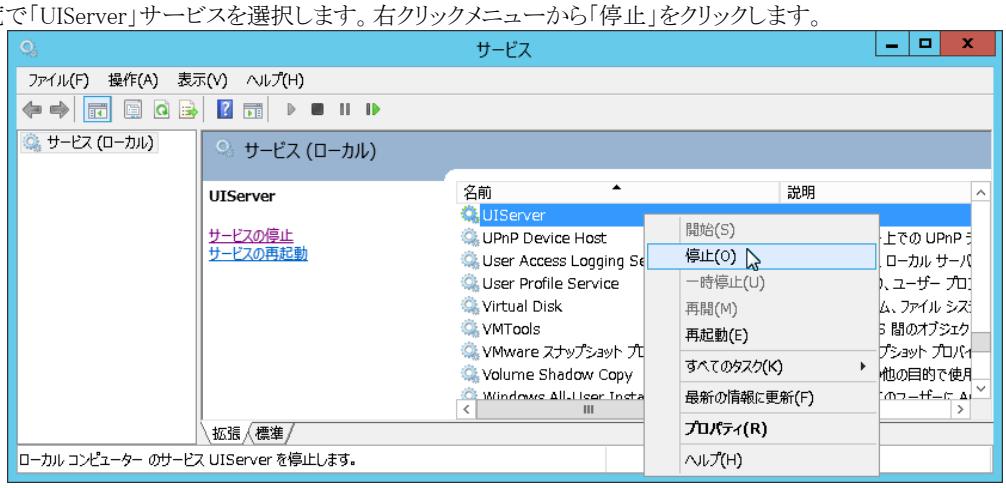
① Windowsのスタート画面からコントロールパネルを開き、「管理ツール」から「サービス」を起動します。

② 一覧で「UcsLog」サービスを選択します。右クリックメニューから「停止」をクリックします。



③ 正常に停止されている場合は、「UcsLog」サービスの状態が空白になっています。

④ 一覧で「UIServer」サービスを選択します。右クリックメニューから「停止」をクリックします。



⑤ 正常に停止されている場合は、「UIServer」サービスの状態が空白になっています。

3. U/Cサーバ停止後の確認

停止作業の完了後に、以下の内容をご確認ください。

- U/Cインストールフォルダ配下のフォルダやファイルへ常時アクセスするアプリケーションが稼働している場合には、該当のアプリケーションを停止していること(例:ウイルス対策ソフトでのウイルス検索処理など)
- U/Cインストールフォルダ配下のフォルダやファイルをエクスプローラ等で開いていないこと
- U/Cサーバ停止時に立ち上げた「コマンドプロンプト」画面を閉じていること

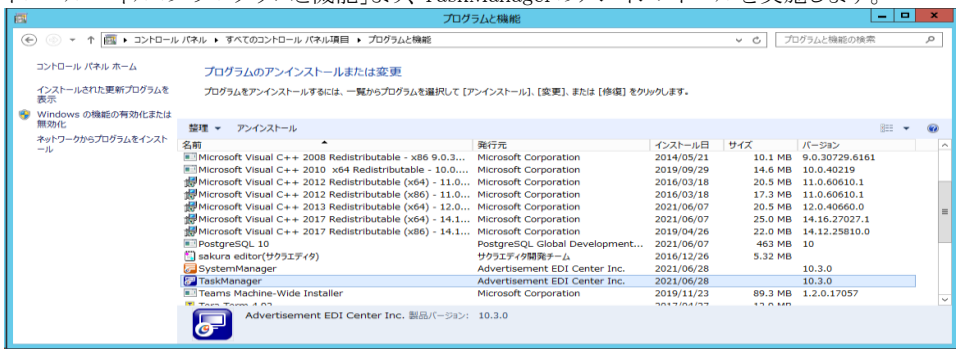
2.2.2. SystemManager、TaskManagerのアンインストール

次に、SystemManager、TaskManagerをアンインストールします。

U/Cサーバのバージョンアップにあたって、SystemManager、TaskManagerを事前にアンインストールする必要があります。ただし、アンインストールによって、接続先設定（ログイン設定）が削除されることはございません。また、バージョンアップ後、接続先設定（ログイン設定）の登録内容は引き継がれますので、再設定作業は不要です。

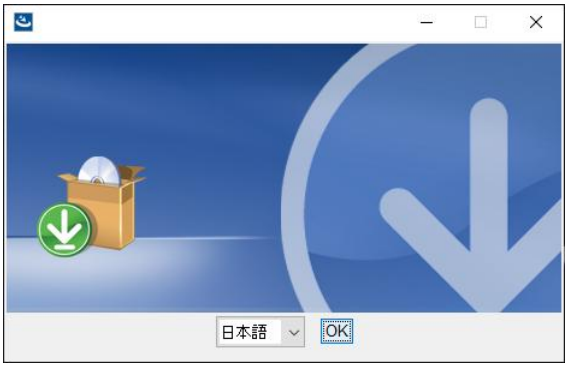
◆コントロールパネルの「プログラムと機能」より、SystemManagerのアンインストールを実施します。

◆コントロールパネルの「プログラムと機能」より、TaskManagerのアンインストールを実施します。

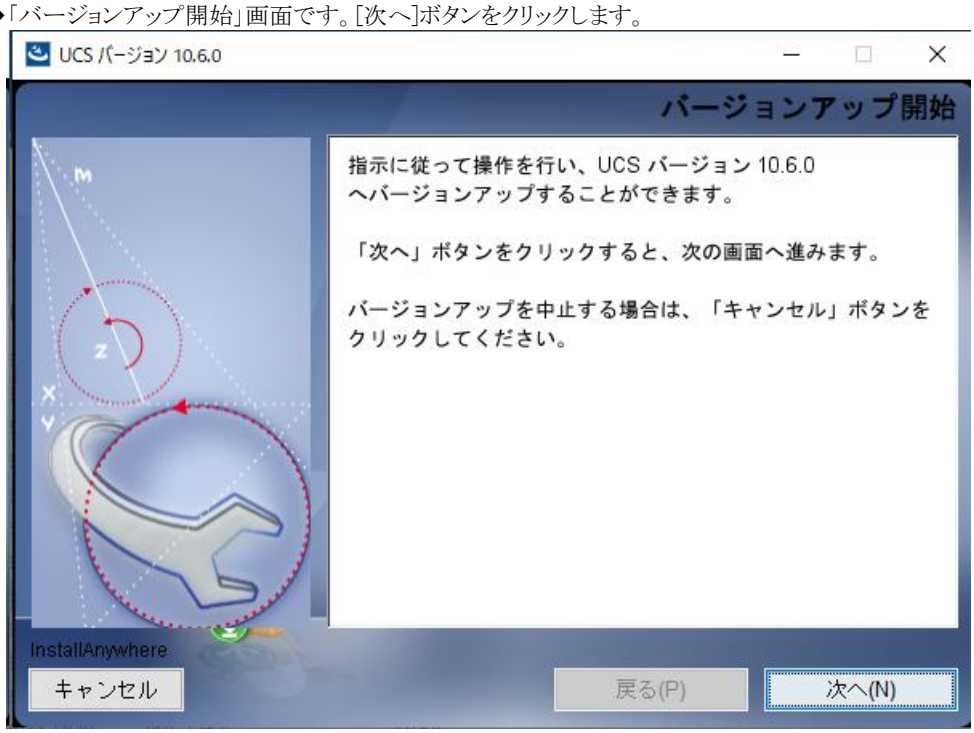


2.2.3. インストーラの実行

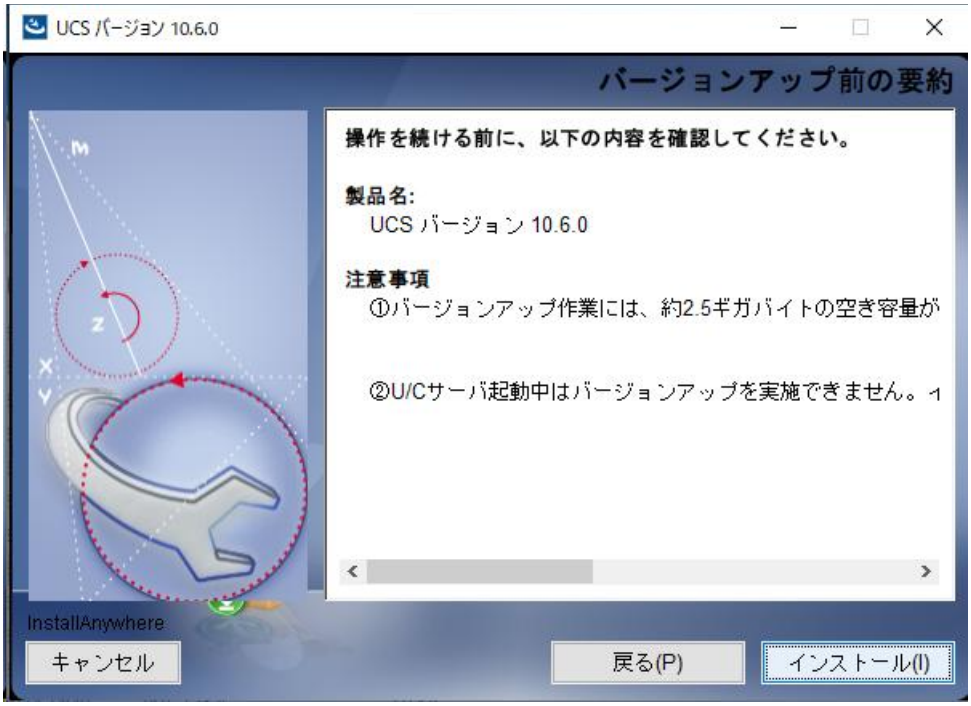
◆インストーラ（UCS_ver10.6.0_setup.exe）をダブルクリックして実行します。
「言語選択」画面が表示されるので、変更せずに[OK]ボタンをクリックします。



◆「バージョンアップ開始」画面です。[次へ]ボタンをクリックします。

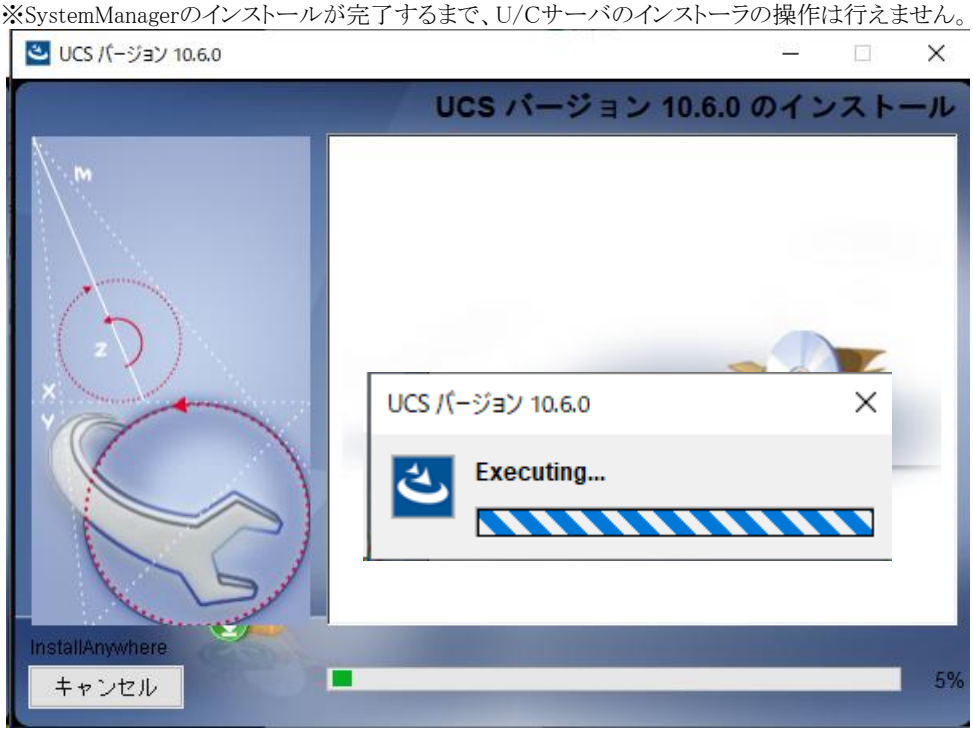


◆「バージョンアップ前の要約」画面です。
注意事項について問題がなければ、[インストール]ボタンをクリックし、バージョンアップを実行します。

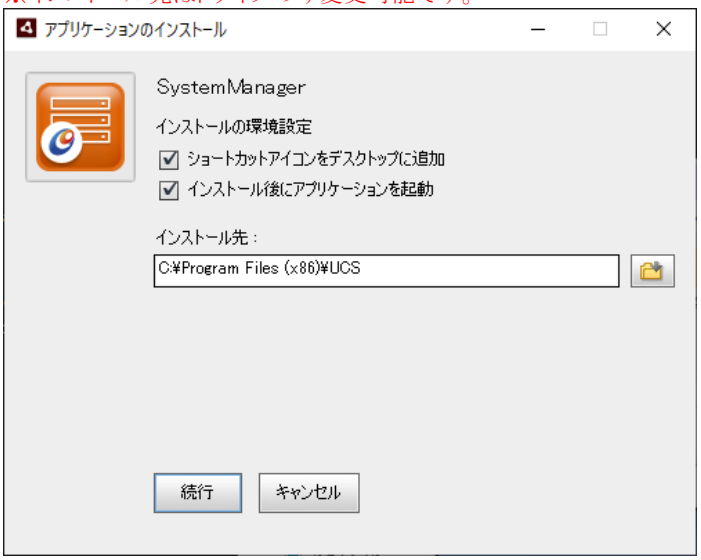


◆「広告EDI UCSのインストール」画面です。現行モジュールやデータベースのバックアップ取得、新規モジュールの更新、データベース定義の更新が自動的に行われます。
処理が完了するとSystemManagerのインストールへ進みます。

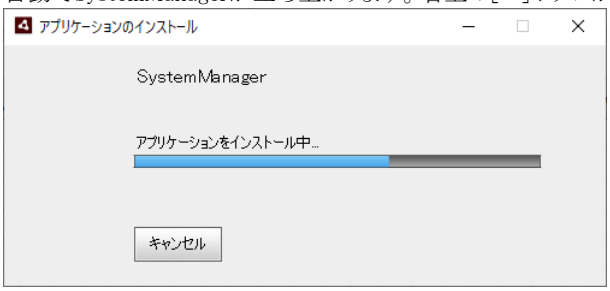
◆SystemManagerのインストール設定画面が新規に立ち上がります。
※SystemManagerのインストールが完了するまで、U/Cサーバのインストーラの操作は行えません。



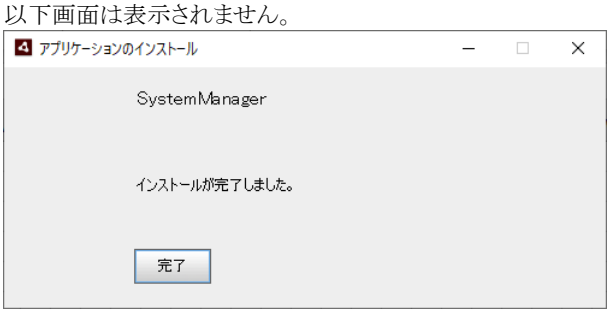
◆SystemManagerのインストール設定画面です。
インストール先を選択後、[続行]ボタンをクリックしインストールを実行します。
※インストール先はドライブのみ変更可能です。



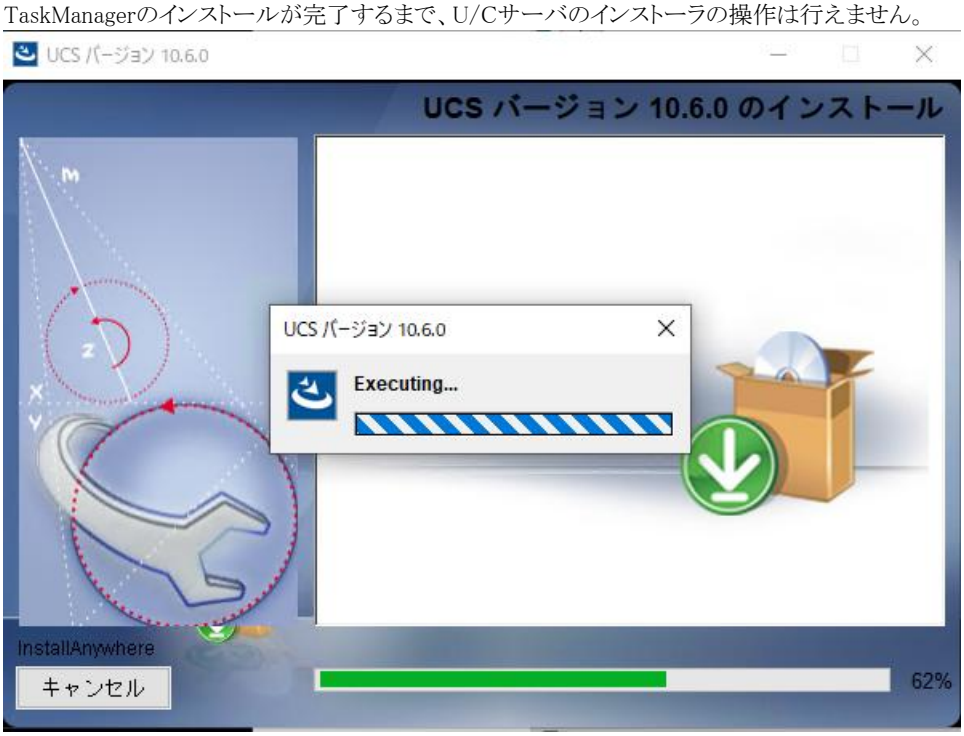
◆インストール画面です。インストールが完了すると、自動で完了画面になります。
インストール設定画面で[インストール後にアプリケーションを起動]にチェックをつけていた場合、インストール完了後、自動でSystemManagerが立ち上がります。右上の[×]ボタンからSystemManagerを終了してください。



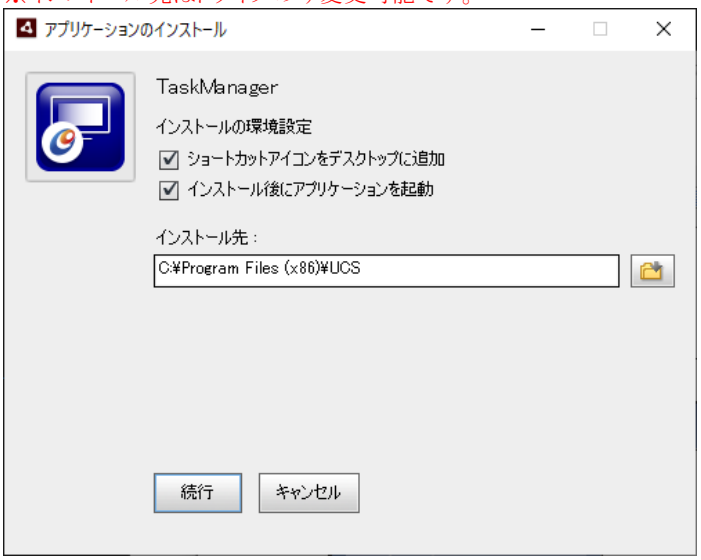
◆完了画面です。「完了」をクリックすると、SystemManagerのインストール画面が閉じられ、TaskManagerのインストールへ進みます。なお、インストール設定画面で[インストール後にアプリケーションを起動]にチェックをつけていた場合、以下画面は表示されません。



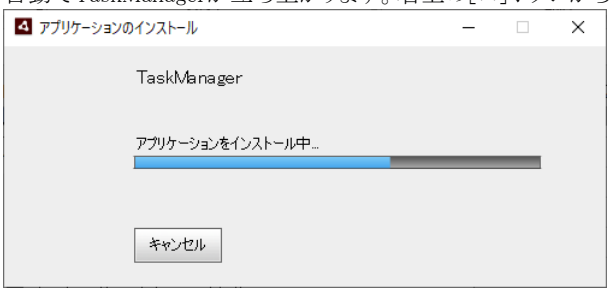
◆TaskManagerのインストール画面が新規に立ち上がります。
TaskManagerのインストールが完了するまで、U/Cサーバのインストーラの操作は行えません。



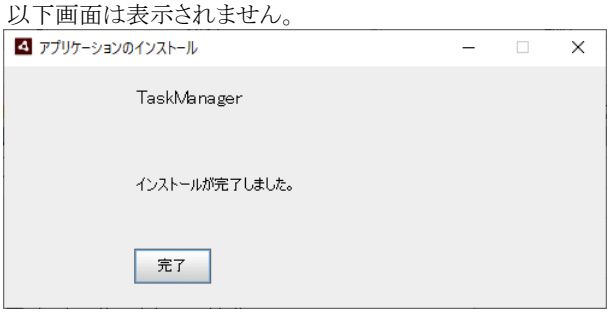
◆TaskManagerのインストール設定画面です。
インストール先を選択後、[続行]ボタンをクリックし、インストールを実行します。
※インストール先はドライブのみ変更可能です。



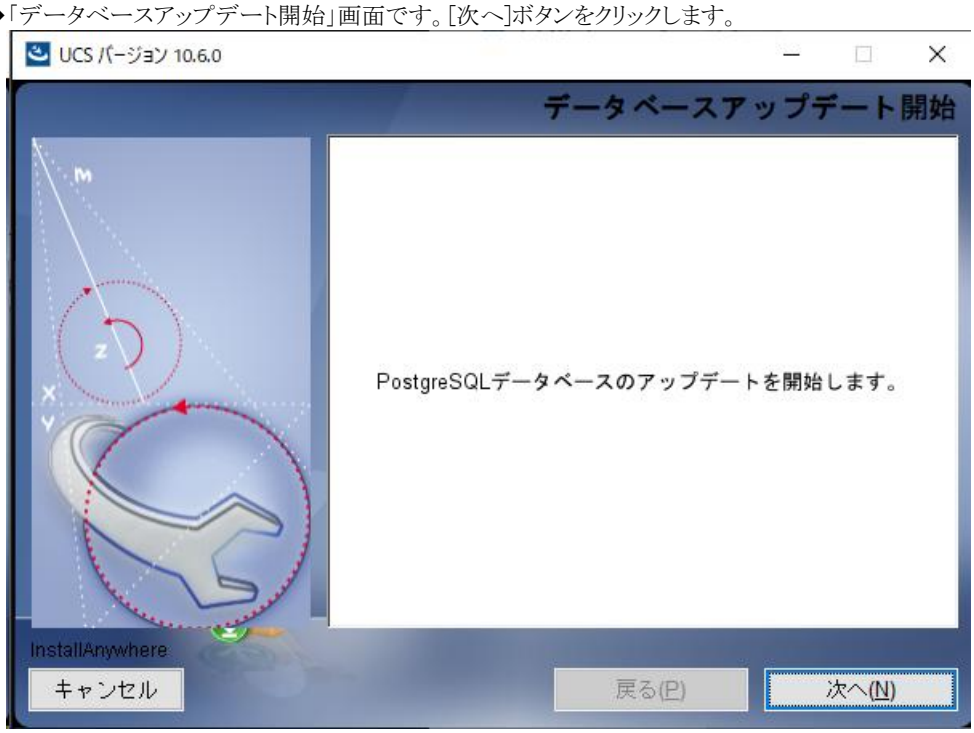
◆インストール画面です。インストールが完了すると、自動で完了画面になります。
インストール設定画面で[インストール後にアプリケーションを起動]にチェックをつけていた場合、インストール完了後、自動でTaskManagerが立ち上がります。右上の[×]ボタンからTaskManagerを終了してください。



◆完了画面です。「完了」をクリックすると、TaskManagerのインストール画面が閉じられ、
「データベースアップデート開始」画面へ進みます。
なお、インストール設定画面で[インストール後にアプリケーションを起動]にチェックをつけていた場合、
以下画面は表示されません。

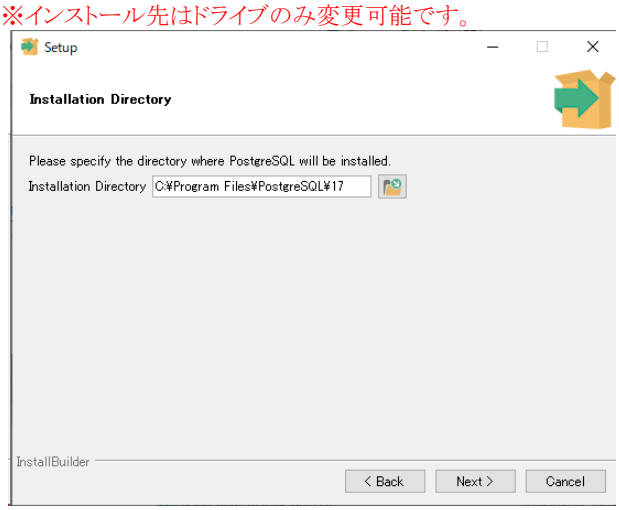


◆「データベースアップデート開始」画面です。[次へ]ボタンをクリックします。

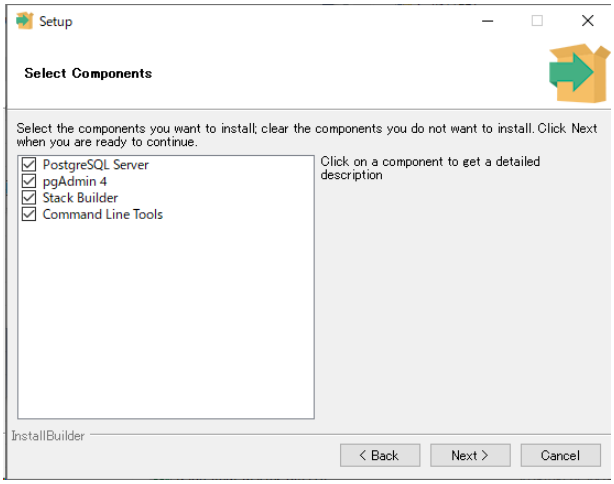


◆PostgreSQLのインストール画面が新規に立ち上がります。
[Next>]ボタンをクリックし、PostgreSQLのアップデートに進みます。
※PostgreSQLのインストールが完了するまで、U/Cサーバのインストーラの操作は行えません。

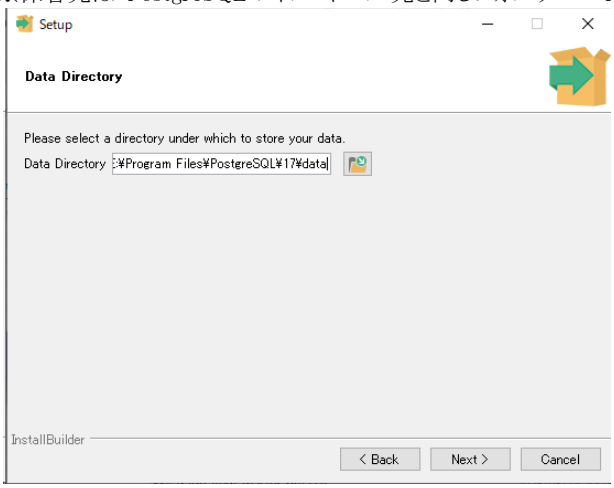
◆PostgreSQLのインストール先選択画面です。インストール先を選択し[Next> >]ボタンをクリックします。
※インストール先はドライブのみ変更可能です。



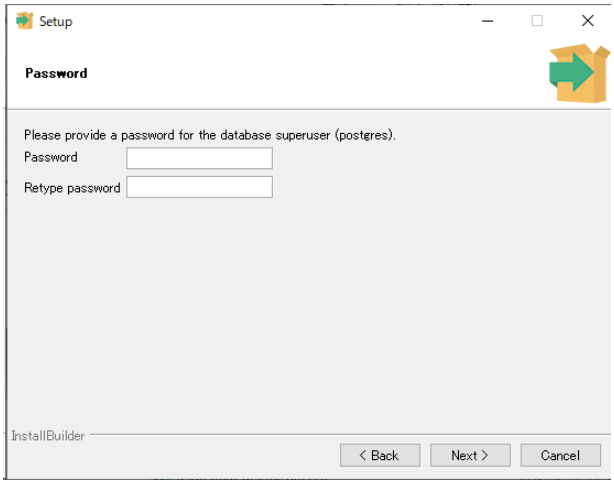
◆インストールするコンポーネントを選択する画面です。変更せずに[Next >]ボタンをクリックします。

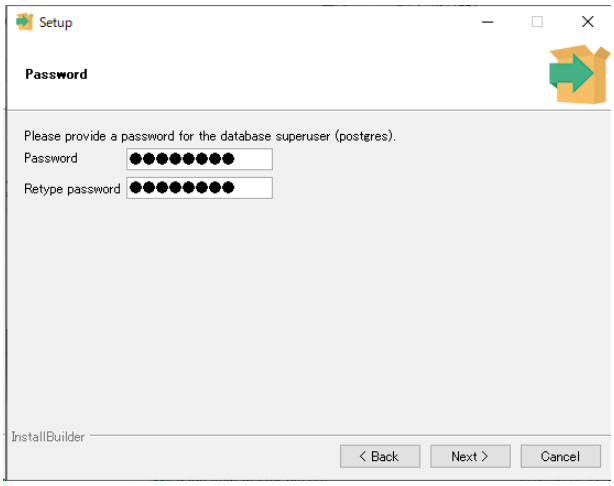


◆データベース情報保管先選択画面です。保管先を選択し[Next >]ボタンをクリックします。
※保管先は「PostgreSQLのインストール先と同じフォルダパス¥data」を指定してください。



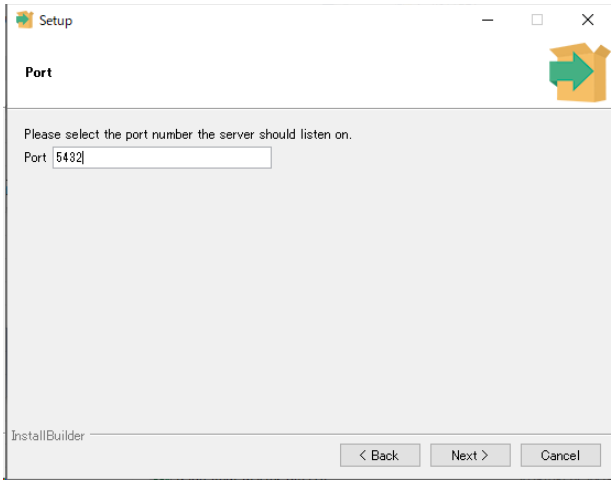
◆パスワード入力画面です。「postgres」と入力し[Next >]ボタンをクリックします。
※パスワードの変更が必要な場合は広告取引EDIサポートデスクまでお問い合わせください。





◆ポート番号設定画面です。変更せずに[Next >]ボタンをクリックします。

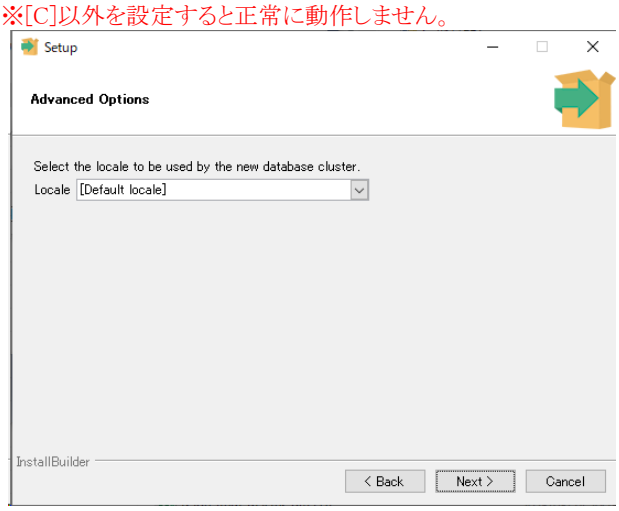
※ポート番号の変更が必要な場合は広告取引EDIサポートデスクまでお問い合わせください。

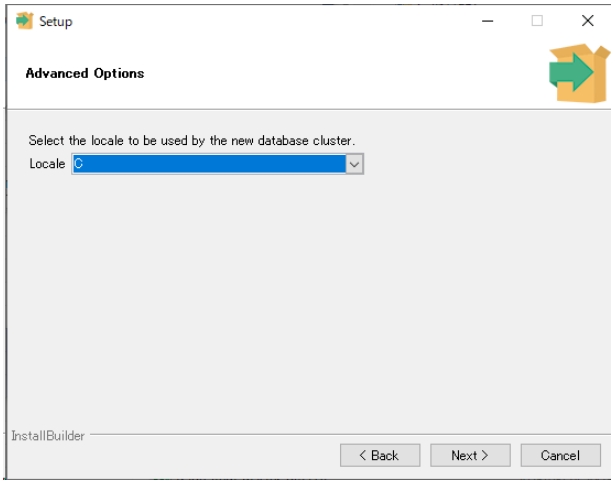


◆設定情報選択画面です。

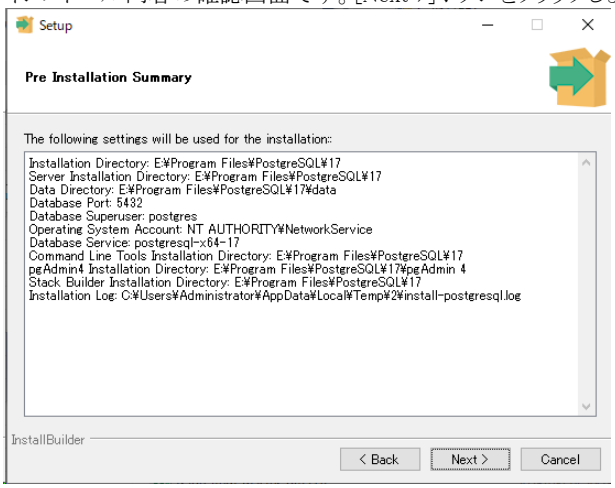
Localeの設定が初期値では［Default locale］となっているので［C］に変更し[Next >]ボタンをクリックします。

※[C]以外を設定すると正常に動作しません。

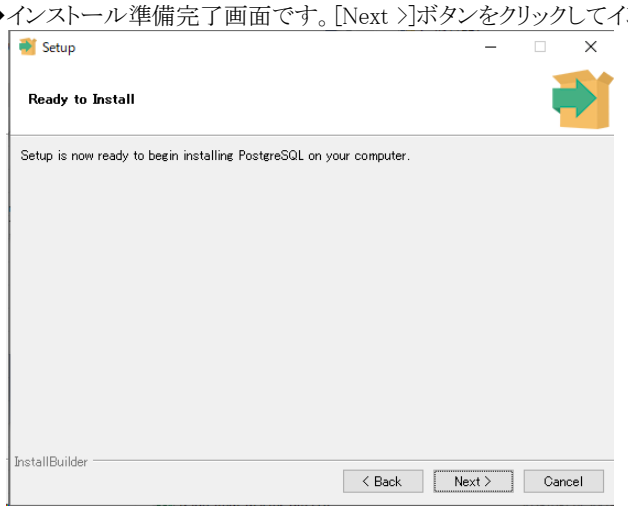




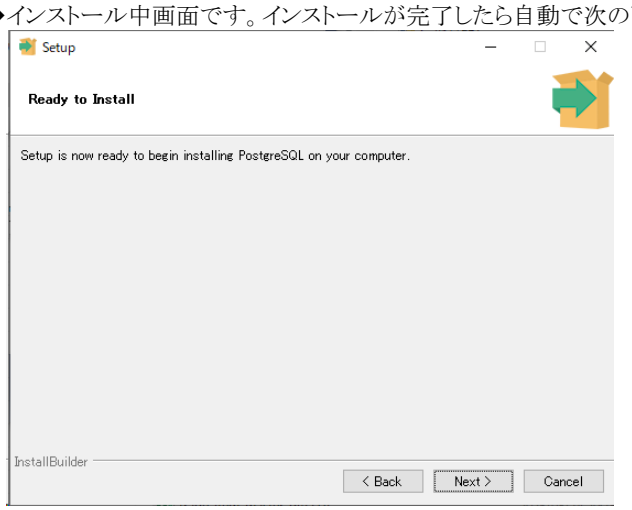
◆インストール内容の確認画面です。[Next >]ボタンをクリックします。



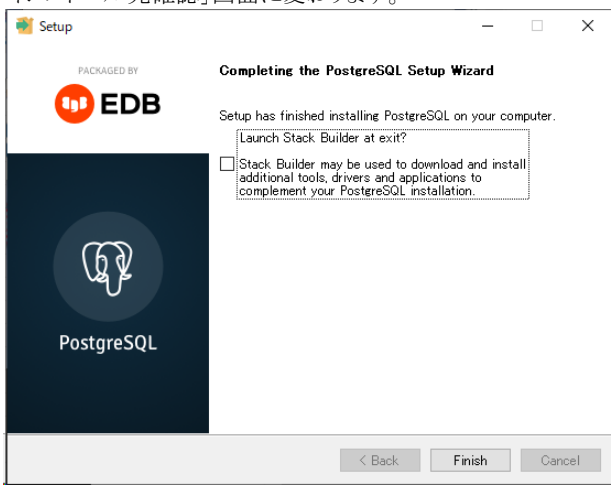
◆インストール準備完了画面です。[Next >]ボタンをクリックしてインストールを実行します。



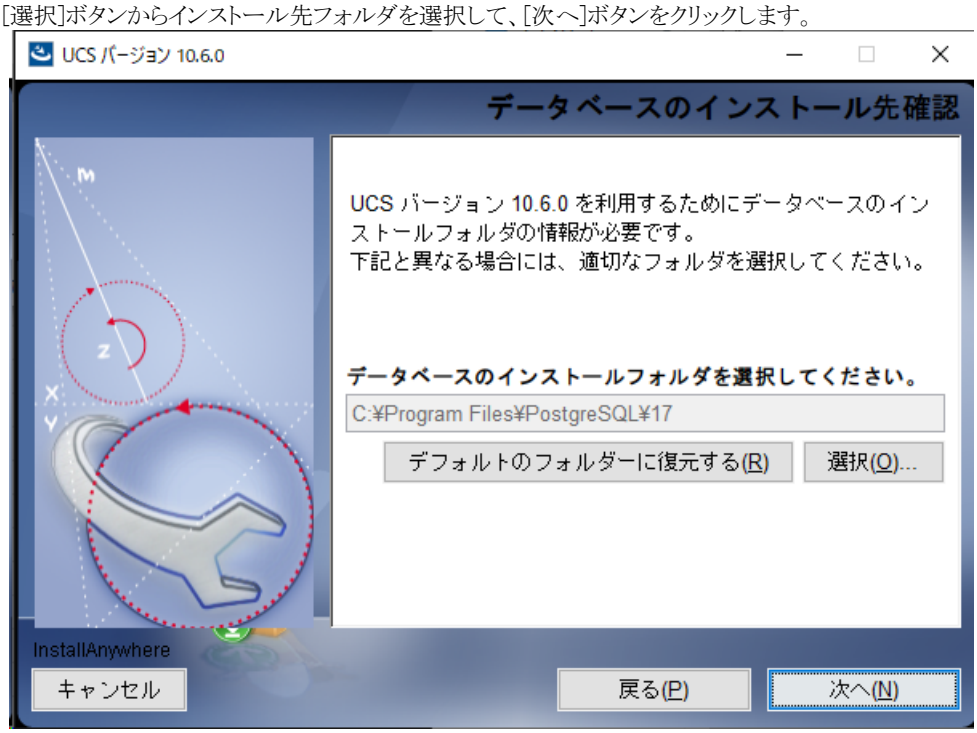
◆インストール中画面です。インストールが完了したら自動で次の画面に変わります。



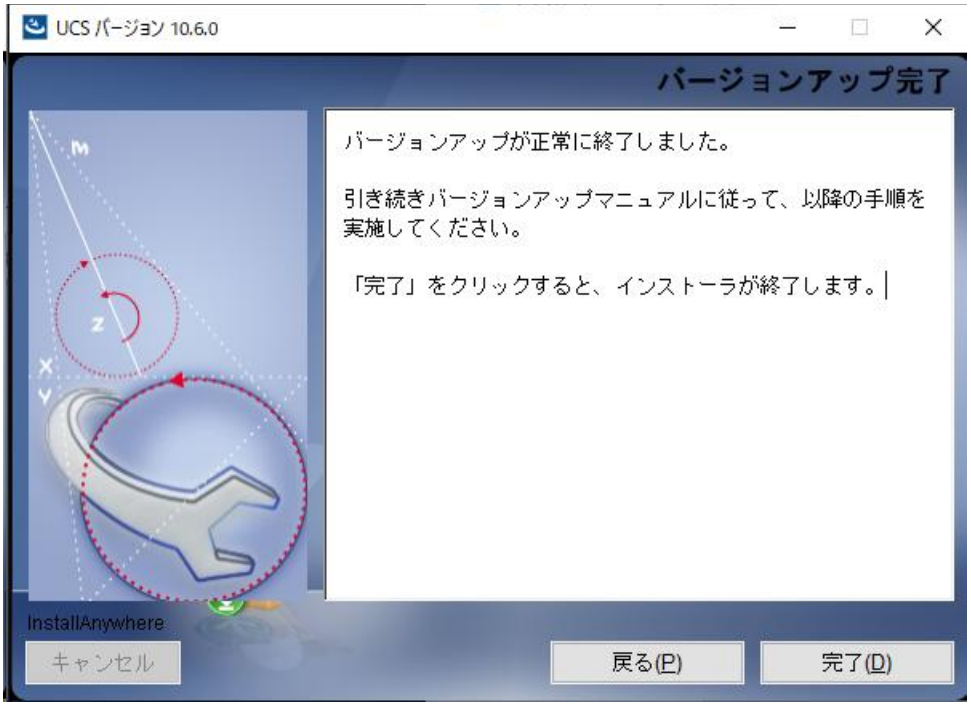
◆インストール完了画面です。**チェックボックスのチェックを外し**、[Finish]ボタンをクリックします。
[Finish]ボタンをクリックするとPostgreSQLのインストール画面が閉じられ、U/Cサーバのインストーラが「データベースのインストール先確認」画面に変わります。



◆「データベースのインストール先確認」画面です。PostgreSQLのインストール先を変更した場合には、[選択]ボタンからインストール先フォルダを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



◆「バージョンアップ完了」画面です。[完了]ボタンをクリックするとインストーラが終了します。
引き続き、「2.2.4.不要フォルダの削除」を実施します。



2.2.4. 不要フォルダの削除

ここまでの手順が問題なく完了すると、以下フォルダが作成されています。U/Cサーバの運用には不要となりますので、サーバの空き容量が逼迫する場合は削除してください。

- (U/Cインストールフォルダ)¥operation¥Update_10.6.0

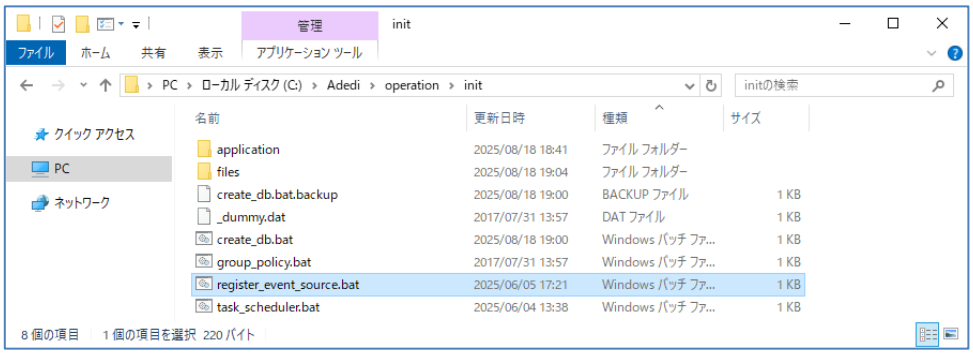
※ 上記フォルダと同じ階層にフォルダ「Storage_10.6.0」も作成されています。こちらのフォルダは、旧バージョンのバックアップを含みますので、削除は避けてください。
なお、U/Cサーバの運用には不要となりますので、フォルダの圧縮や別サーバへの移動は問題ありません。

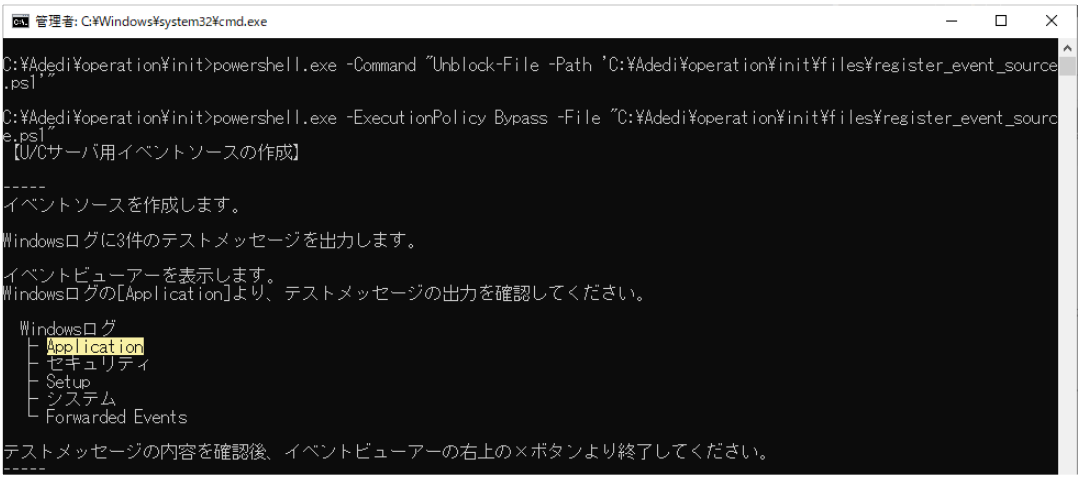
2.2.5. イベントソースの作成

U/Cサーバがイベントログを出力するために必要なイベントソースを作成します。
以下の手順でイベントソースの作成を行ってください。

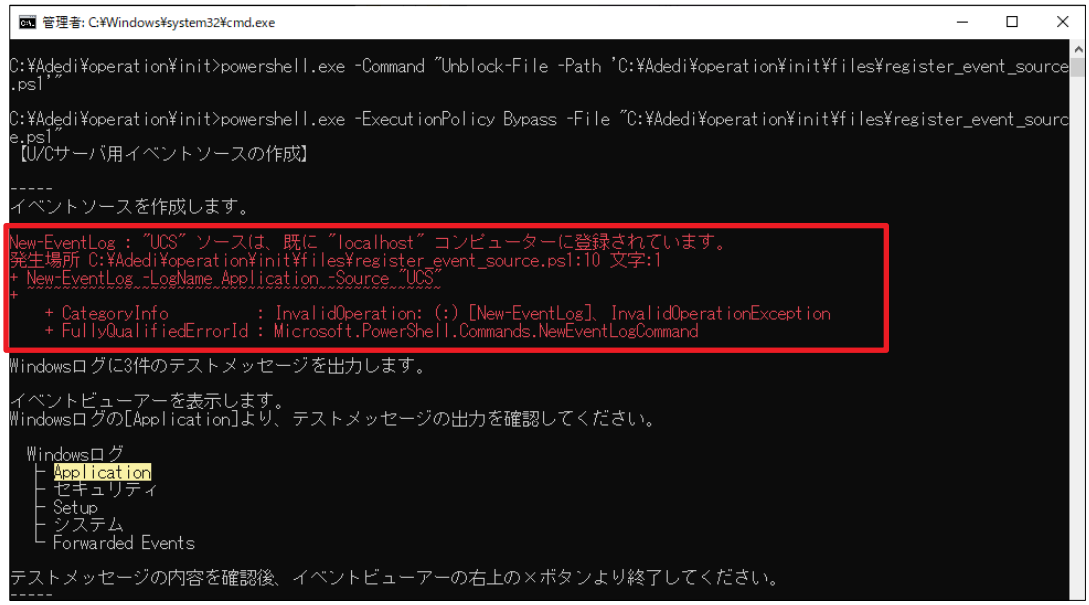
◆以下のフォルダにある「register_event_source.bat」をダブルクリックします。
イベントソースの作成後、イベントビューアーが起動します。イベントビューアーの起動にはしばらく時間がかかります。

➢ (U/Cインストールフォルダ)¥operation¥init¥register_event_source.bat

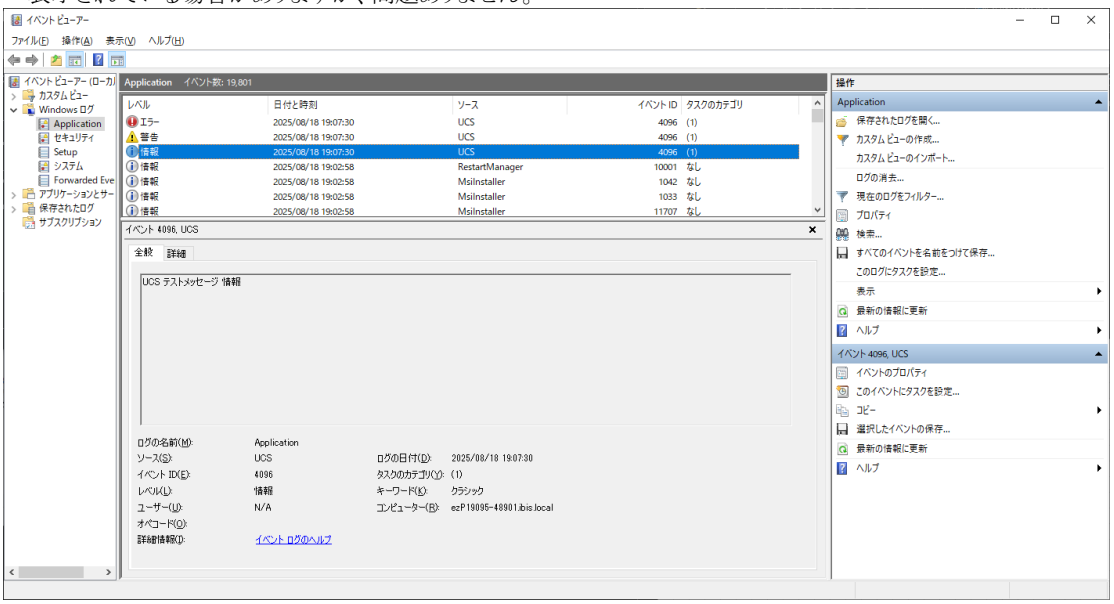


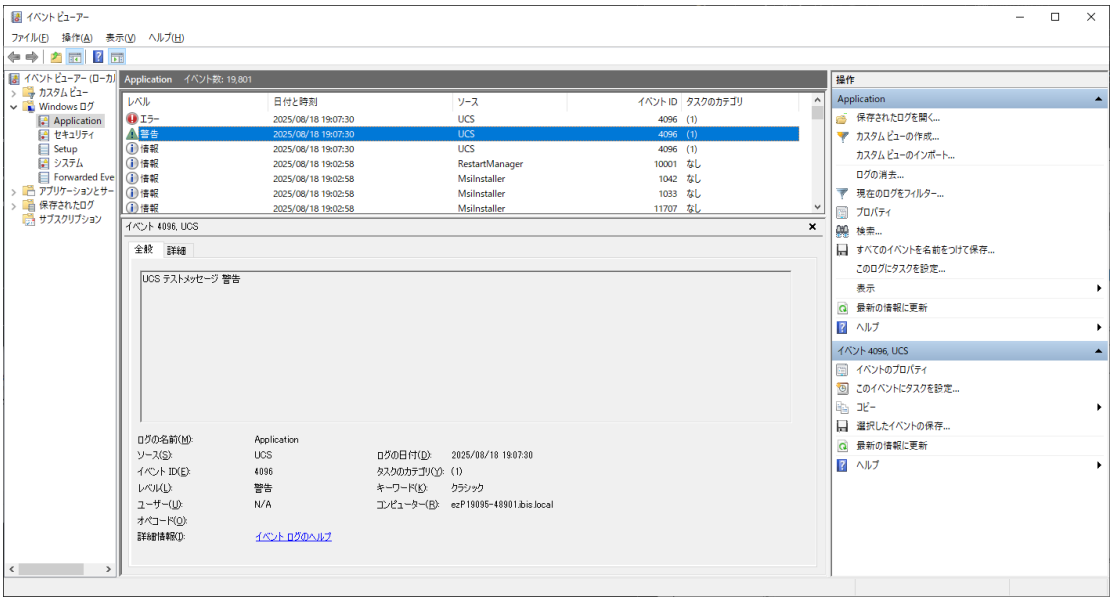


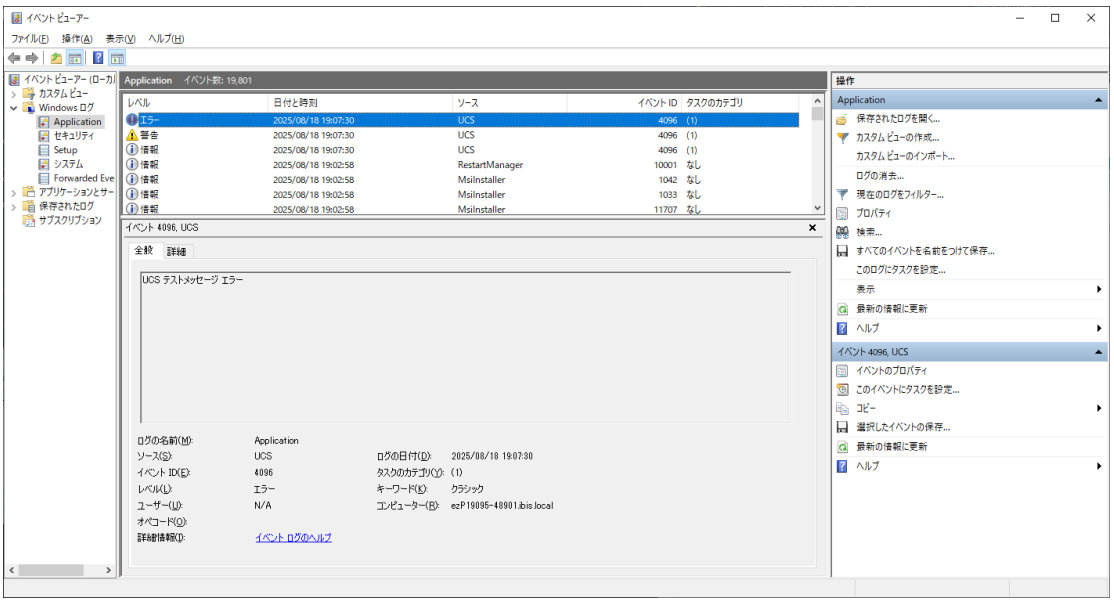
※対象のイベントソースが既に登録されている場合に以下のメッセージが表示されますが、問題ありません。



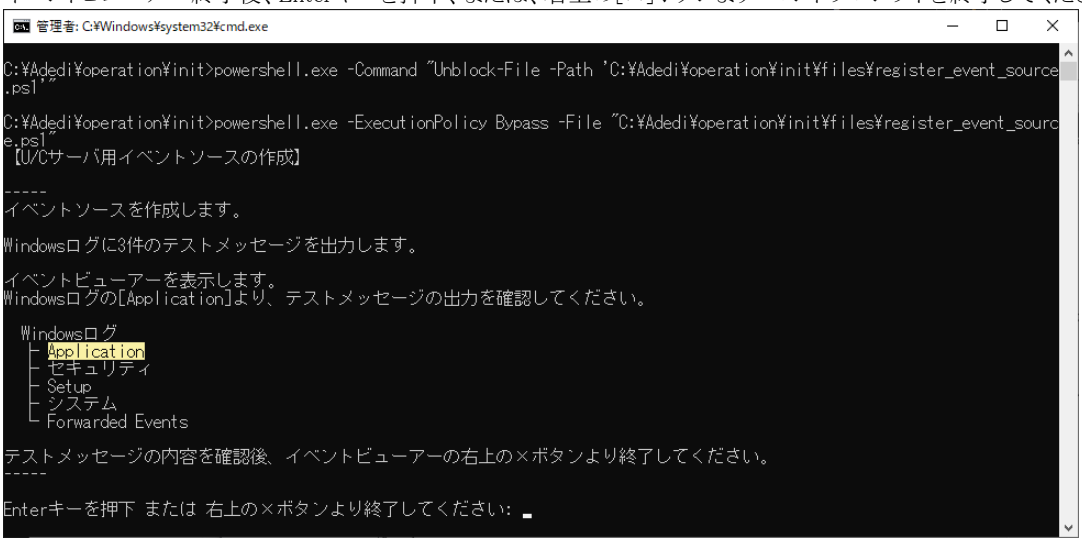
◆「Windowsログ」＞「Application」をクリックします。レベルが「情報」「警告」「エラー」の3つのテストメッセージが出力されていることを確認します。テストメッセージの確認後、右上の[×]ボタンよりイベントビューアーを終了してください。
※テストメッセージの他に、「ソース ″UCS″ からのイベント ID 4096 の説明が見つかりません。」というメッセージが表示されている場合がありますが、問題ありません。







◆イベントビューアー終了後、Enterキーを押下、または、右上の[×]ボタンよりコマンドプロンプトを終了してください。



2.2.6. サービス設定変更

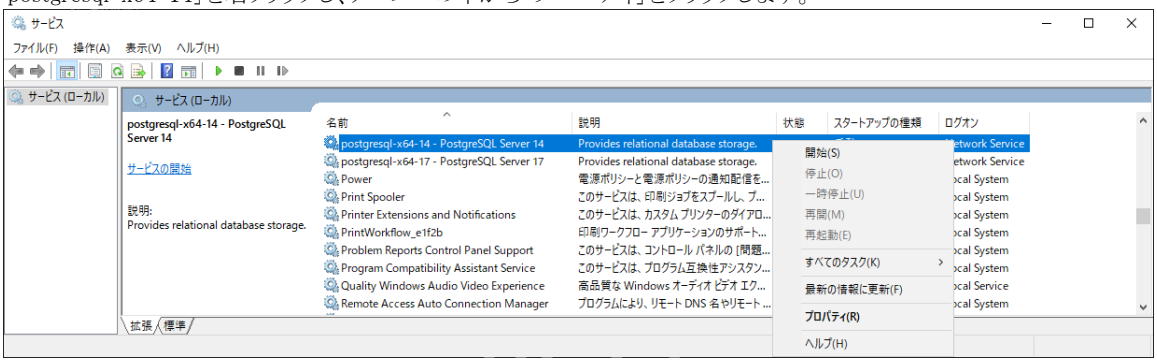
U/Cサーバのバージョンアップに伴い、U/Cサーバで使用するPostgreSQLのバージョンが変更されるため、旧バージョンのPostgreSQLのサービスの設定変更を行います。

以下の手順で対象のサービスの設定変更を行ってください。

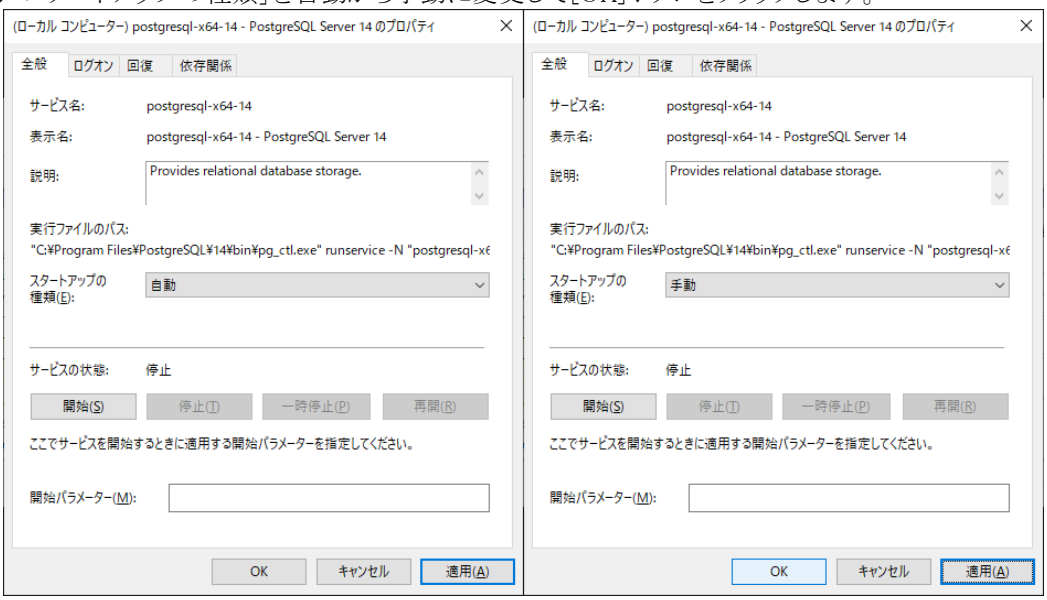
◆Windowsのサービスを起動します。

コントロールパネル ＞ 管理ツール ＞ サービス を開きます。

「postgresql-x64-14」を右クリックし、メニューの中から「プロパティ」をクリックします。



◆「スタートアップの種類」を自動から手動に変更して[OK]ボタンをクリックします。



2.2.7. U/Cサーバの起動

最後に、U/Cサーバを起動してバージョンアップ作業は完了となります。
U/Cサーバ 10.6.0より、U/Cサーバを起動する際に使用するスクリプトを変更しております。
次の手順で設定を変更後、起動を行ってください。

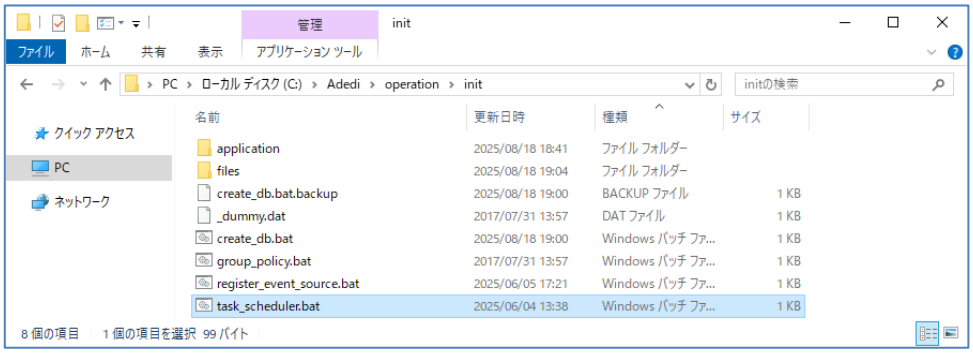
1. U/Cサーバの起動タスク設定
2. 既存のタスクスケジューラ設定の削除
3. 既存のグループポリシー設定の削除
4. OSの再起動

※ U/Cサーバの運用方法によって実施する手順が異なるため、ご注意ください。

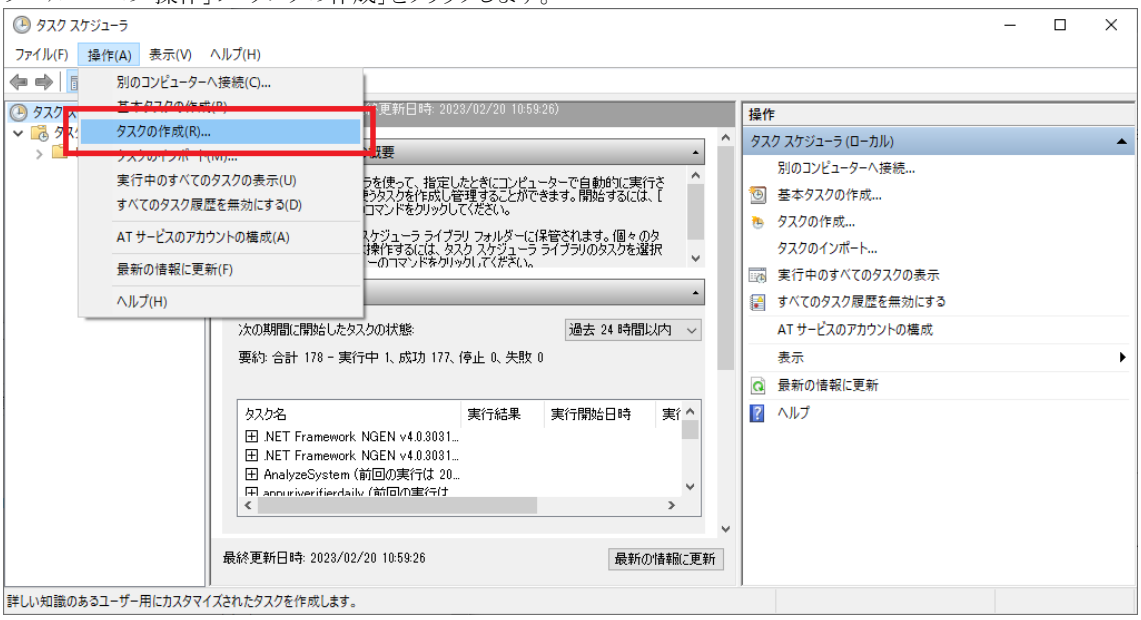
2.2.7.1. U/Cサーバの起動タスク設定

◆以下のフォルダにある「task_scheduler.bat」をダブルクリックし、タスクスケジューラを起動します。タスクスケジューラの起動にはしばらく時間がかかります。

➢ (U/Cインストールフォルダ)¥operation¥init¥task_scheduler.bat



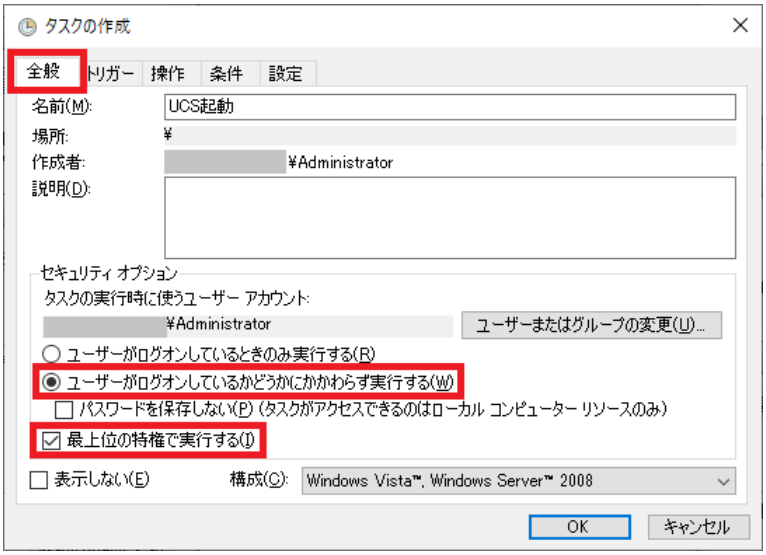
◆ツールバーの「操作」>「タスクの作成」をクリックします。



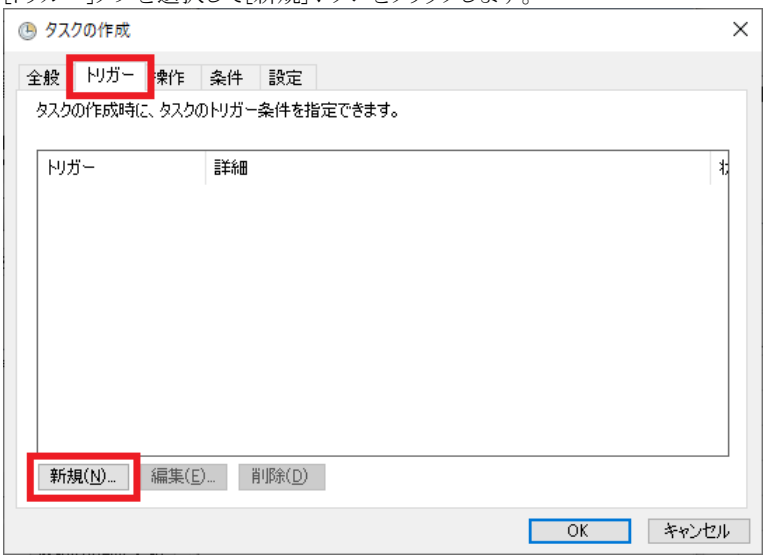
◆[全般]タブで以下の設定を行います。

表 2-1 タスクの設定値

項目名	設定値
名前	任意の名前を入力。（例:UCS起動）
セキュリティオプション	「ユーザがログインしているかどうかにかかわらず実行する」を選択。 「最上位の特権で実行する」にチェックを付ける。



◆[トリガー]タブを選択して[新規]ボタンをクリックします。

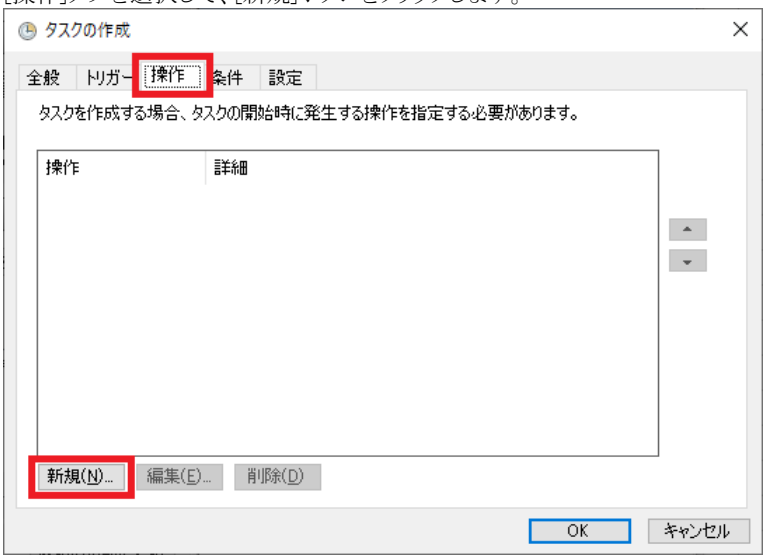


◆「新しいトリガー」画面で以下の設定を行います。設定後に[OK]ボタンをクリックしてください。

表 2-2 トリガーの設定値

項目名	設定値
タスクの開始	「スタートアップ時」を選択。
詳細設定	「遅延時間を指定する」にチェックを付け、任意の時間を設定。 ※OS起動後にU/Cサーバを起動するまでの時間を設定します。 5～10分を目安に設定してください。

◆[操作]タブを選択して、[新規]ボタンをクリックします。

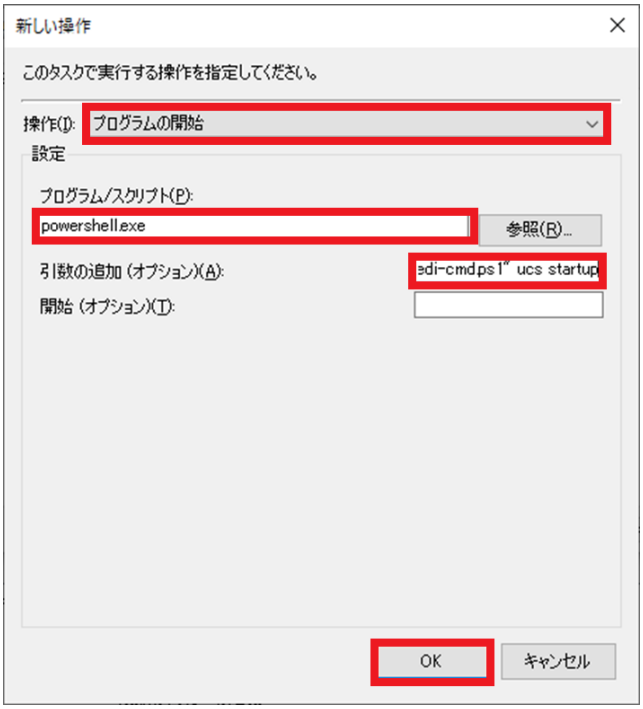


◆「新しい操作」画面で実行する操作を設定します。Windows PowerShell の使用可否に応じて設定内容が異なりますので、お客様の環境に合わせて設定してください。

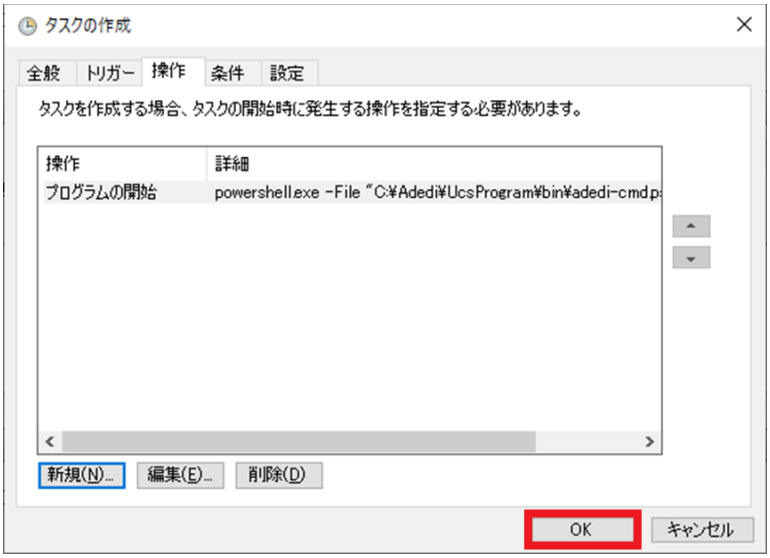
①Windows PowerShell が使用できる場合
以下の設定を行います。設定後、[OK]ボタンをクリックしてください。

表 2-3 操作の設定値(adedi-cmd.ps1)

項目名	設定値
操作	「プログラムの開始」を選択。
プログラム/スクリプト	「powershell.exe」と入力。
引数の追加(オプション)	「-File ″(U/Cインストールフォルダ)¥UcsProgram¥bin¥adedi-cmd.ps1″ ucs startup」と入力。 ※U/Cサーバをデフォルトの「C:¥Adedi」にインストールした場合、 「-File ″C:¥Adedi¥UcsProgram¥bin¥adedi-cmd.ps1″ ucs startup」と入力。



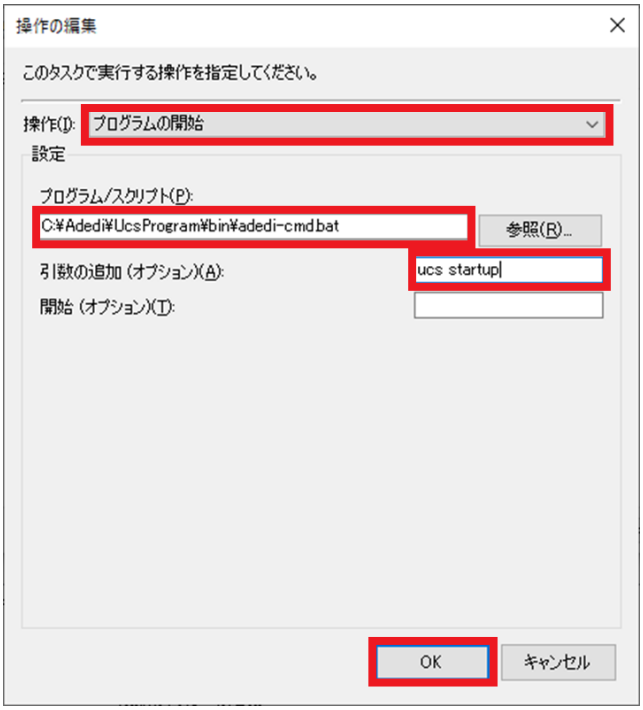
最後に「タスクの作成」画面にて、[OK]ボタンをクリックして設定を登録します。



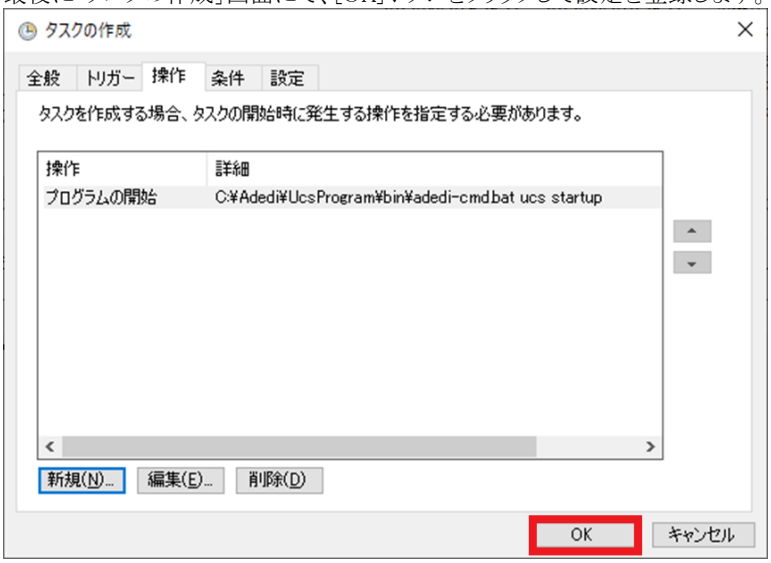
②Windows PowerShell が使用できない場合
以下の設定を行います。設定後、[OK]ボタンをクリックしてください。

表 2-4 操作の設定値(adedi-cmd.bat)

項目名	設定値
操作	「プログラムの開始」を選択。
プログラム/スクリプト	「(U/Cインストールフォルダ)¥UcsProgram¥bin¥adedi-cmd.bat」と入力。 ※U/Cサーバをデフォルトの「C:¥Adedi」にインストールした場合、 「C:¥Adedi¥UcsProgram¥bin¥adedi-cmd.bat」と入力。
引数の追加(オプション)	「ucs startup」と入力。



最後に「タスクの作成」画面にて、[OK]ボタンをクリックして設定を登録します。

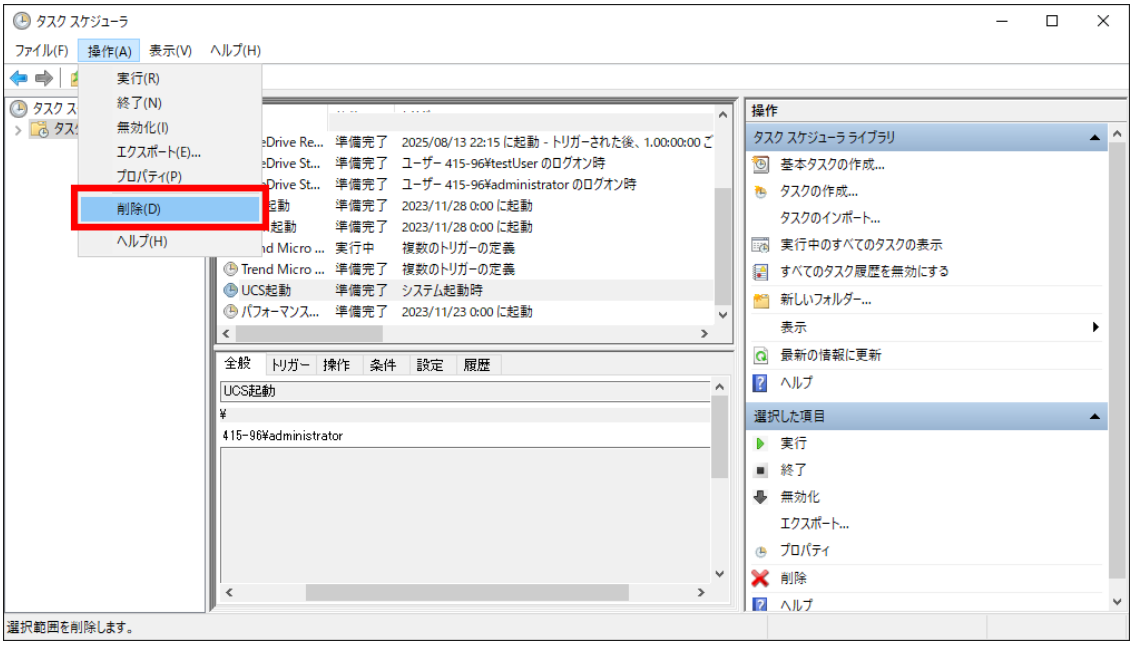


2.2.7.2. 既存のタスクスケジューラ設定の削除

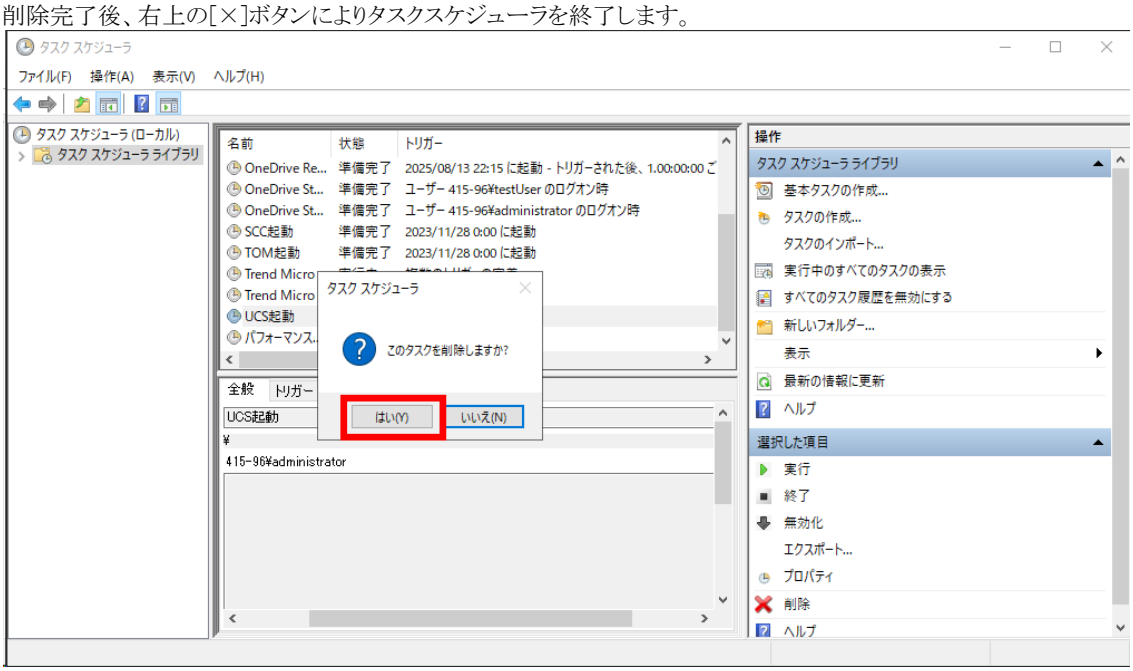
バージョンアップ前にタスクスケジューラの設定を登録済の場合、既存のタスクの削除を実施します。

※ バージョンアップ前にタスクスケジューラを使用していない場合、本手順は実施不要です。
次の手順「2.2.7.3 既存のグループポリシー設定の削除」に進んでください。

◆既存のタスクを選択し、ツールバーの「操作」>「削除」をクリックします。



◆確認のダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。
削除完了後、右上の[×]ボタンによりタスクスケジューラを終了します。



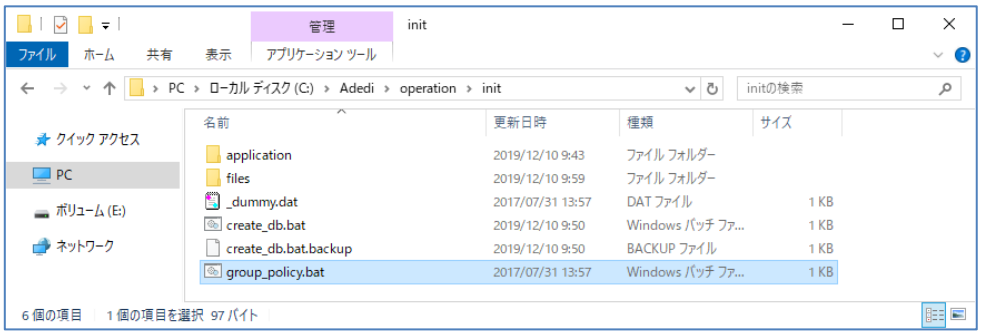
2.2.7.3.　既存のグループポリシー設定の削除

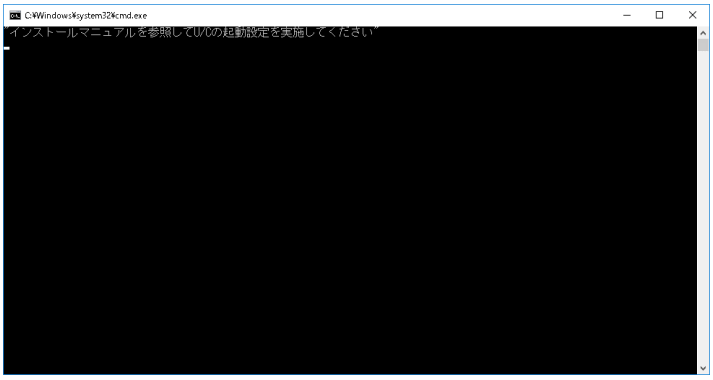
バージョンアップ前にグループポリシーの設定を登録済の場合、既存の設定の削除を実施します。

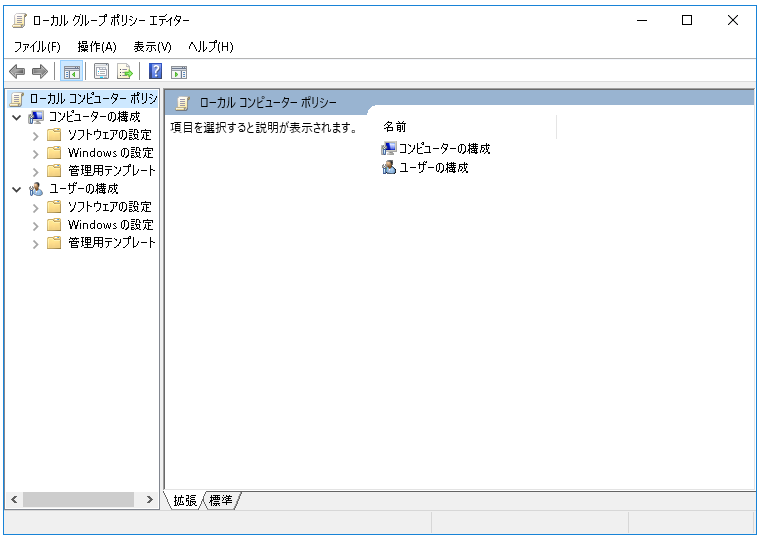
※　バージョンアップ前にグループポリシーを使用していない場合、本手順は実施不要です。
　　次の手順「2.2.7.4 OSの再起動」に進んでください。

◆以下のフォルダにある「group_policy.bat」をダブルクリックし、ローカルグループポリシーエディタを起動します。
グループポリシーエディタの起動にはしばらく時間がかかります。

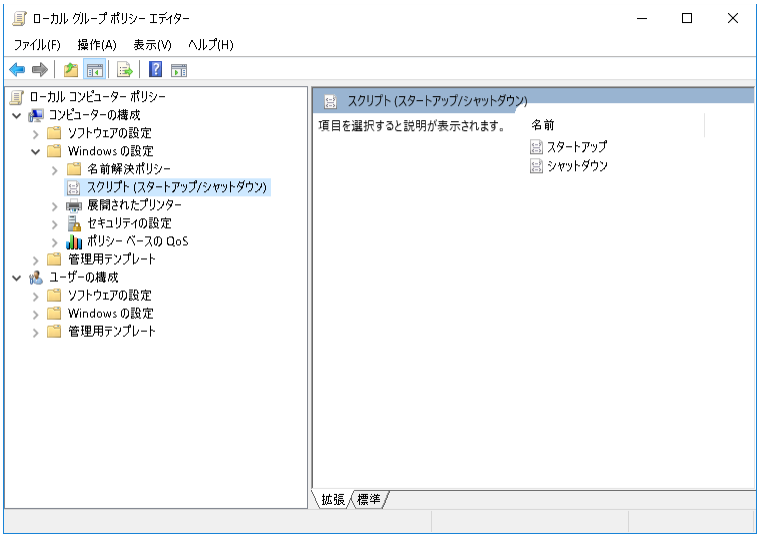
➢ (U/Cインストールフォルダ)¥operation¥init¥group_policy.bat



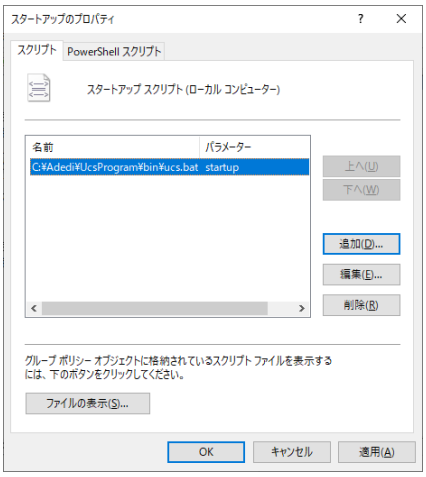


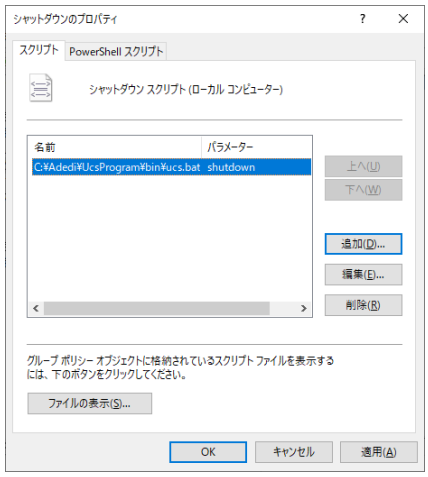


◆ローカルグループポリシーエディタにおいて、
コンピュータの構成 ＞ Windows の設定 ＞ スクリプト(スタートアップ/シャットダウン)を開きます。

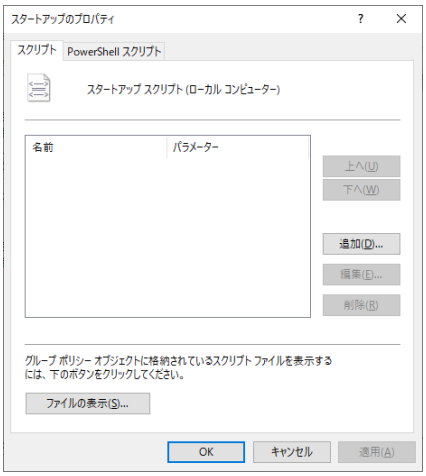


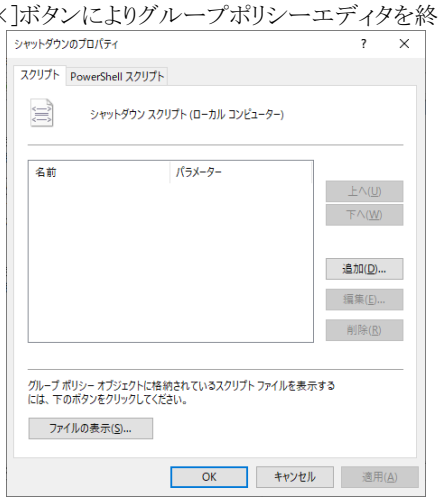
◆スタートアップをダブルクリックしてプロパティ画面を開き、登録されたU/Cサーバの自動起動設定を選択し、
[削除]ボンタンをクリックします。





◆削除完了後、「OK」ボタンをクリックします。
グループポリシーエディタに戻り、右上の[×]ボタンによりグループポリシーエディタを終了します。



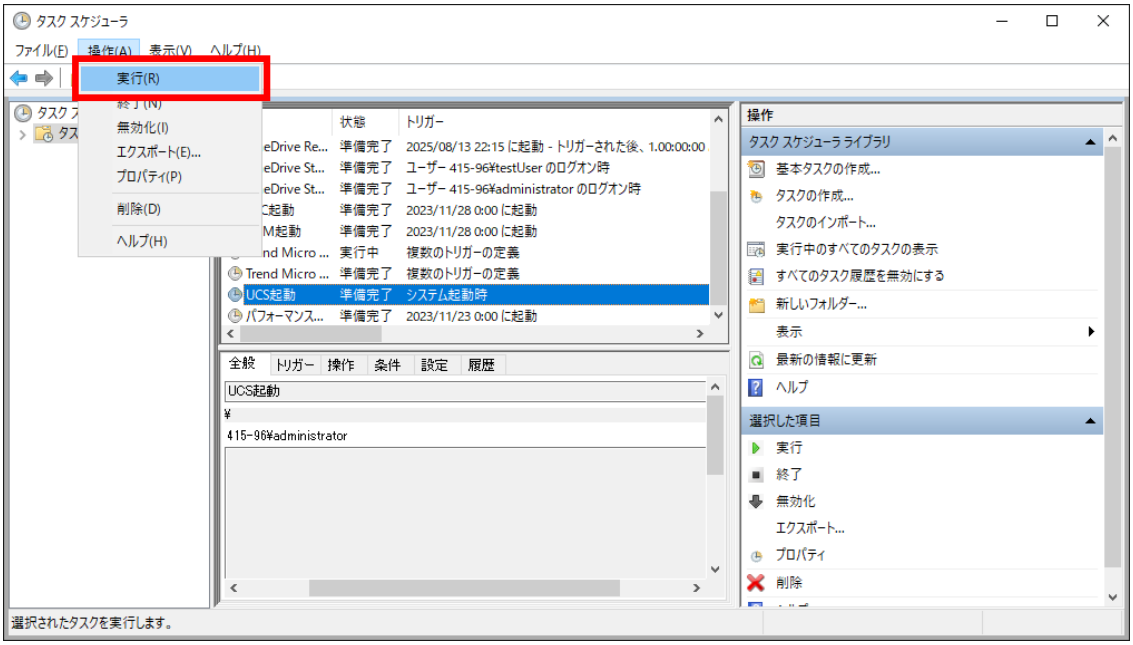


2.2.7.4. OSの再起動

U/C サーバの起動設定の変更は以上です。U/C サーバを自動起動で運用を行っている場合は、OS の再起動を実施してください。

U/Cサーバを手動起動で運用を行っている場合、登録したタスクを選択し、ツールバーの「操作」>「実行」をクリックしてください。

※ U/Cサーバを手動起動で運用する場合、OS再起動の実施は不要です。



2.3. バージョンアップ後の動作確認

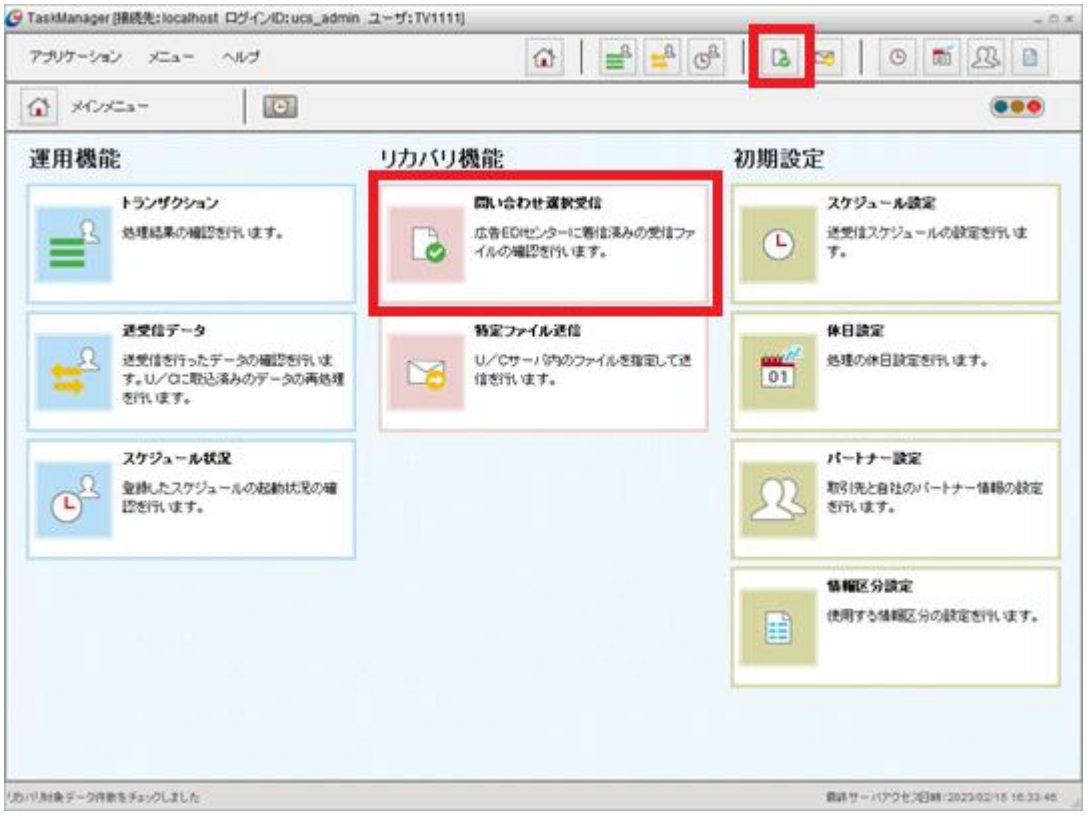
ここまでの手順にてU/Cサーバのバージョンアップが完了した後、広告取引EDIシステムへ通信を行うことで、正常にバージョンアップできていることを確認します。

こちらの作業は必須ではありませんので、必要なお客様のみの実施で問題ありません。

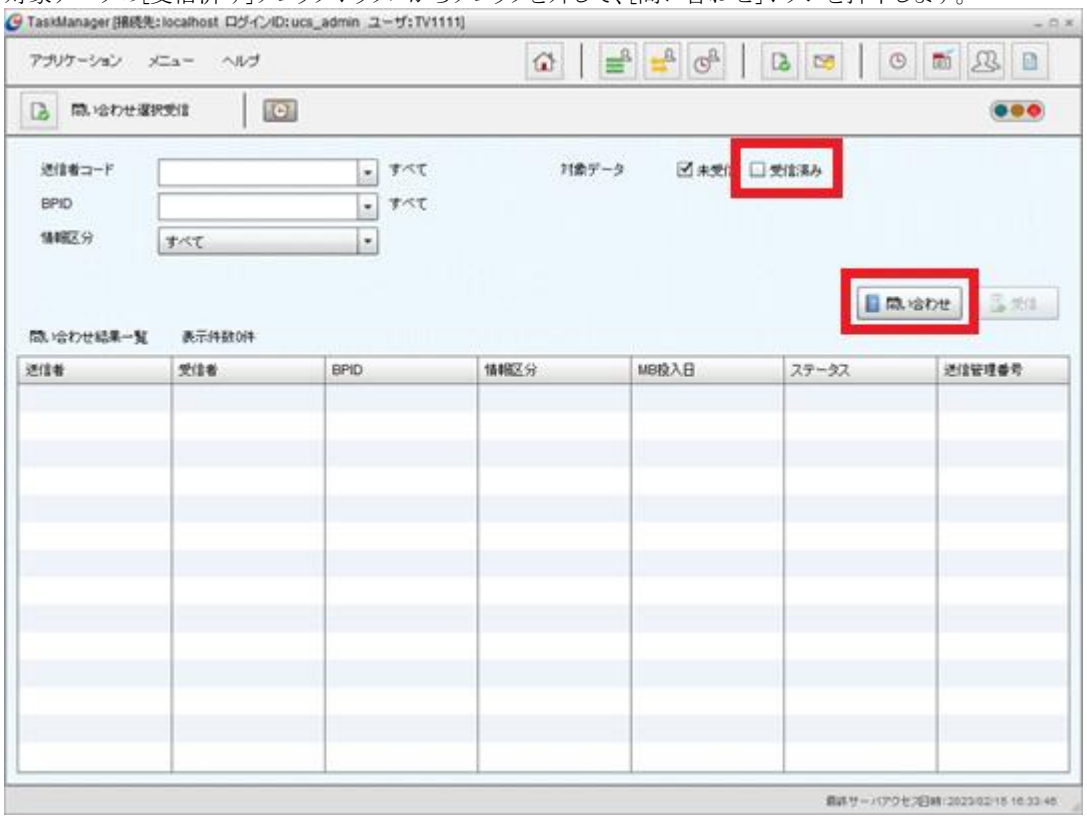
確認はTaskManagerより問い合わせ機能を利用して行います。テストデータを利用したEDIデータの送受信での確認を行いたい場合は、広告取引EDIのサポートデスクまでお問い合わせください。

2.3.1. 問い合わせ機能による確認

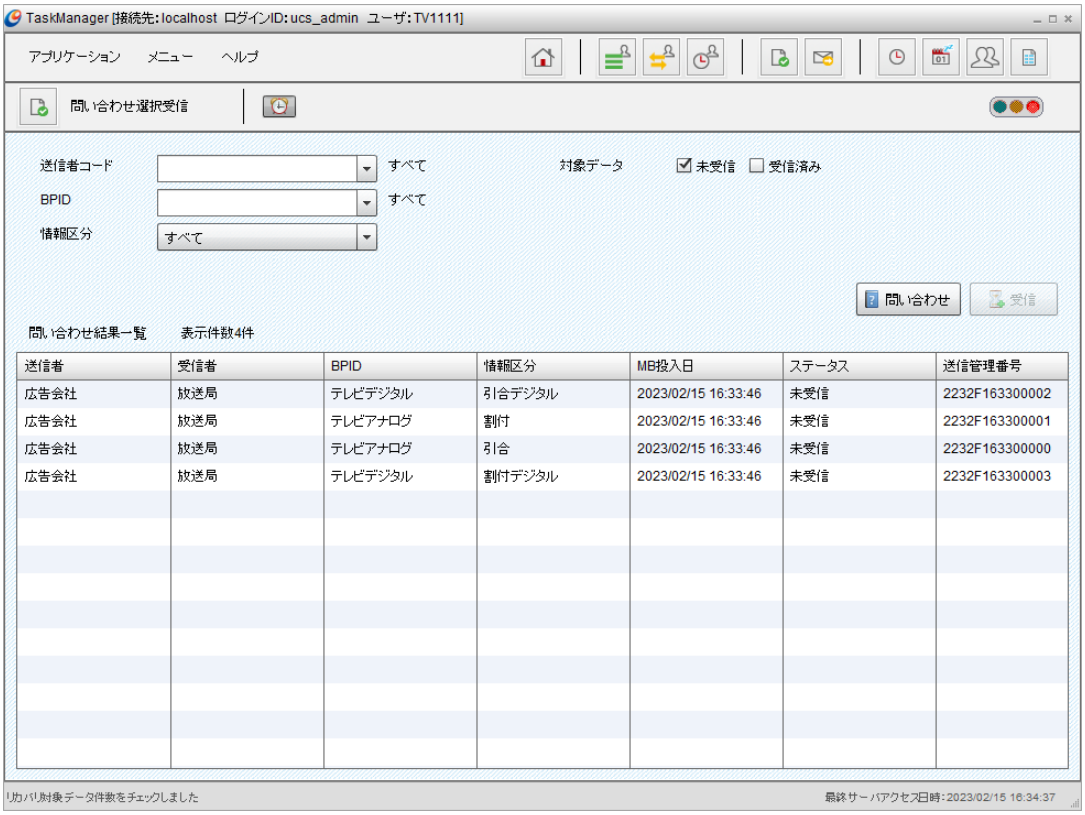
① TaskManagerのメインメニュー画面またはツールバーの[問い合わせ選択受信]ボタンをクリックして、「問い合わせ選択受信」画面を表示します。



② 対象データの[受信済み]チェックボックスからチェックを外して、[問い合わせ]ボタンを押下します。



③ 問い合わせの結果が画面に表示されたら完了です。



※ エラーが発生した場合、その内容を通知するメッセージダイアログが表示されます。

※ 広告取引EDIシステムに着信しているデータの状況次第では、問い合わせ結果一覧に何も表示されない場合がありますが、その場合は検索結果が0件であっただけであり、通信確認としては問題ありません。

2.4. SystemManager、TaskManagerの別端末でのバージョンアップ

本章では、U/Cサーバのバージョンアップを行った端末以外で、SystemManager、およびTaskManagerのバージョンアップを行う手順を説明します。

SystemManager、およびTaskManagerを別端末にインストールしている場合、以下の手順に沿って必ずバージョンアップを行ってください。なお、本章はU/Cサーバのバージョンアップ完了後に実施してください。

※ 別端末でのバージョンアップを行う必要がないお客様は、本手順の実施は不要です。

※ バージョンアップを行わなかった場合、U/Cサーバを正常に操作できない可能性があります。

① はじめに、SystemManager、TaskManagerをアンインストールします。詳細は、「2.2.2 SystemManager、TaskManagerのアンインストール」を参照してください。

② SystemManager、TaskManagerのインストーラを、U/Cサーバをインストールした端末の以下ファイルパスから取得し、インストール先の別端末にコピーしてください。コピーする場所は任意です。

- SystemManager
  (U/Cインストールフォルダ)¥operation¥init¥application¥SystemManager.exe
- TaskManager
  (U/Cインストールフォルダ)¥operation¥init¥application¥TaskManager.exe

③ 別端末にコピーした上記インストーラを使用して、SystemManager、TaskManagerの順番にインストールします。それぞれのインストーラをダブルクリックで実行し、画面に従ってインストールを実施してください。

2.5. エラーが発生したときは

バージョンアップ実行時にエラーが発生した場合、インストーラの画面にエラーメッセージが出力されます。以下の表から対応方法を確認してください。対応方法に記載のないメッセージが出力された場合や不明点がある場合は、広告取引EDIサポートデスクまでお問い合わせください。

ログファイルの確認を促すメッセージが出力された場合には、ログファイルに出力されたメッセージを確認してください。なお、ログファイルは以下ファイルパスに配置されています。

- (U/Cインストールフォルダ)¥operation¥Storage_10.6.0¥logs¥error.log

2.5.1. 対応方法

表 2-5 プロセス状況関連メッセージ

メッセージ	対応
UIServer の停止に失敗しました。	該当のサービスを停止してください。 停止手順は「UCサーバ 10.6.0 オペレーションマニュアル」の「10.2.U/Cサーバの手動停止」をご参照ください。
UcsLog の停止に失敗しました。	
{PostgreSQLのサービス名}の起動に失敗しました。 UCController、ScheduleControllerの状況確認を省略します。	PostgresSQLサービスを起動してください。 ①コントロールパネルを開き、「管理ツール」から「サービス」を起動する ②メッセージに表示されたPostgreSQLのサービス名を確認し、一覧から同じ名称のサービスを選択する ③右クリックメニューから「開始」をクリックする
UCController の停止に失敗しました。	該当のプロセスを停止してください。 停止手順は「UCサーバ 10.6.0 オペレーションマニュアル」の「10.2.U/Cサーバの手動停止」をご参照ください。
ScheduleController の停止に失敗しました。	

表 2-6 バックアップ取得関連メッセージ

メッセージ	対応
バックアップ取得フォルダが存在しません。	(U/Cインストールフォルダ)¥operationフォルダ配下にフォルダ「Storage_10.6.0」が存在することを確認してください。存在しない場合はフォルダ「Storage_10.6.0」を作成し、再度インストーラを実行してください。
ダンプファイルの出力先フォルダの作成に失敗しました。	バックアップ取得対象のフォルダやファイルに読み取り権限がない可能性があります。 メッセージに出力されたフォルダやファイルの読み取り権限を確認してください。
{フォルダ名またはファイル名}のコピーに失敗しました。	

表 2-7 モジュール更新関連メッセージ

メッセージ	対応
libフォルダの一時的なリネームに失敗しました。モジュール入れ替えが可能な状態ではありません。	新規モジュールへの入れ替え対象となるフォルダやファイルに実行権限がない可能性があります。 メッセージに出力されたフォルダやファイルの実行権限を確認してください。 実行権限に問題がないことが確認できたら、削除に失敗したフォルダやファイルを手動で削除してください。
libフォルダのリネームの戻し処理に失敗しました。モジュール入れ替えが可能な状態ではありません。	
{フォルダ名またはファイル名}の削除に失敗しました。	
{フォルダ名またはファイル名}の配置に失敗しました。	新規モジュールへの入れ替え対象が配置されるフォルダに書き込み権限がない可能性があります。 メッセージに出力されたフォルダやファイルの書き込み権限を確認してください。

表 2-8 データベース更新関連メッセージ

メッセージ	対応
現行バージョンのバージョン番号が取得できませんでした。	「(U/Cインストールフォルダ)¥operation¥Storage_10.6.0¥backup¥UcsProgram¥version.txt」が存在することを確認してください。
適用バージョンのバージョン番号が取得できませんでした。	「(U/Cインストールフォルダ)¥UcsProgram¥version.txt」が存在することを確認してください。
不正なアップデートが検出されました。	現行のU/Cサーバ バージョンよりも古いバージョンを適用しようとしている可能性があります。バージョンアップを中止してください。
○○.sql の適用に失敗しました。	エラーの内容に沿った個別の対応が必要となります。広告取引EDIのサポートデスクまでお問い合わせください。 ※「○○」には複数種類のファイル名が当てはめられます。

表 2-9 PostgreSQLアップデート関連メッセージ

メッセージ	対応
現行バージョンのバージョン番号が取得できませんでした。処理の続行が不可能な状態です。	PostgresSQLサービス(はpostgresql-x64-14)が起動していることを確認してください。
データベースの情報取得に失敗しました。	
過去のデータベース取得情報の削除に失敗しました。	「(U/Cインストールフォルダ)¥operation¥Storage_10.6.0¥backup¥db」配下のファイルを手動で削除してください。
適用バージョンのバージョン番号が取得できませんでした。	「(U/Cインストールフォルダ)¥operation¥Update_10.6.0¥¥update_module¥operation¥init¥application¥postgresql-17.4.0-1-windows-x64.exe」が存在することを確認してください。
データベースバージョンアップ実行ファイルの作成に失敗しました。	「(U/Cインストールフォルダ)¥operation¥Storage_10.6.0¥¥end」フォルダに書き込み権限がない可能性があります。該当フォルダの書き込み権限を確認してください。

2.5.2. インストーラの再実行

エラーが発生した原因への対応が完了した後、再びインストーラを実行することで、バージョンアップを再開することができます。バージョンアップを再開する場合は、「2.2.バージョンアップ手順」に従ってインストーラを再実行してください。

※ 一度、インストーラを実行した際に作成されたフォルダやファイルは削除しないでください。削除された場合、バージョンアップを正常に再開することができません。